



BERNINA 485

取扱説明書

made to create **BERNINA**

ベルニナユーザーの皆様へ



この度はベルニナミシンをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。ベルニナミシンは、これから長年にわたってあなたの信頼にお応えしていくことでしょう。当社は100年以上にわたりユーザーの皆様にご満足いただける製品を作り続けてまいりました。精密で完成度が高く、将来を見据えたソーイングテクノロジーに培われて作り出されたスイスのミシンを、行き届いたカスタマーサービスと共にお届けできることを誇りに思っております。

ベルニナ4シリーズは、開発の際に最高級のテクノロジーと使いやすさだけでなく、デザインにもこだわった最新のモデルです。品質だけでなくデザインも重視されるクリエイティブなユーザーの皆様にご満足いただける製品であると自信を持ってお届けいたします。

あなたの新しいBERNINA 485でクリエイティブなソーイングをお楽しみください。また、ホームページ www.bernina.com で、多彩なアクセサリーについての情報や無料でダウンロードできる作品の作り方などをぜひご覧ください。

経験豊富なベルニナ正規販売代理店が、皆様のアフターサービスを担当いたします。

ユーザーの皆様が新しいベルニナミシンでクリエイティブな時間を楽しんでいただけますよう、心から願っております。

H.P. ウルチ
オーナー

ベルニナインターナショナル株式会社
CH-8266 シュテックボルン

目次

安全上の注意事項	7	平行糸立て棒	30
重要事項	9	2.6 送り歯	30
1 マイベルニナ	11	送り歯の調整	30
1.1 はじめに	11	送り歯の調整	30
1.2 ベルニナの世界へようこそ	11	2.7 ソーイングテーブル	30
1.3 ミシンについて	13	ソーイングテーブルを取り付ける	30
操作部について (前)	13	2.8 押え金	31
各部の名称 (前)	14	押え上げレバーで押え金の位置を変える	31
各部の名称 (横)	15	押え金を交換する	31
各部の名称 (後)	16	ユーザーインターフェースで押え金を選択する	32
1.4 付属アクセサリ	17	押え圧の設定	32
アクセサリについて	17	2.9 針と針板	33
押え金について	18	針を交換する	33
アクセサリボックス	19	ユーザーインターフェースで針を選択する	33
1.5 ユーザーインターフェースについて	20	針の種類と針のサイズの確認	33
機能/表示について	20	針位置 上/下を設定する	33
システム設定について	20	針基線 左/右を設定する	33
ソーイング選択メニューについて	20	針停止 上/下 (常時) を設定する	34
ソフトウェアの操作	21	針板を交換する	34
1.6 針、糸、布地	23	針板をユーザーインターフェースで選択する	35
針について	23	2.10 糸をかける	35
針の種類	24	上糸をかける	35
糸の選択	24	二本針に糸を通す	37
針と糸の組み合わせ	25	三本針に糸を通す	38
2 ソーイングの準備	26	下糸を巻く	38
2.1 初めてミシンをご使用になる前に	26	下糸をかける	39
2.2 アクセサリボックス	26	下糸をかける	41
アクセサリボックスの取り外しと取り付け	26	3 セットアッププログラム	42
アクセサリの収納方法	26	3.1 ソーイング機能の設定	42
2.3 接続と電源	27	上糸調子を設定する	42
フットコントローラーを接続する	27	ソーイングスピードの最高速度を設定する	42
ミシンを電源に接続する	27	留め縫いを設定する	42
押え上げレバーを取り付ける	27	糸切りボタンをプログラムする	42
タッチペンを取り付ける (オプションアクセサリ	28	留め縫いボタンをプログラムする	43
ー)	28	«返し縫い»ボタンをプログラムする	43
ミシンの電源を入れる	28	フットコントローラーをプログラムする	44
2.4 フットコントローラー	28	3.2 パーソナル画面を設定する	44
ソーイングスピードをフットコントローラーでコン	28	3.3 操作音の設定をする	45
トロールする	28	3.4 ミシンの設定	45
追加機能の有効化/無効化	29	ミシンの設定	45
2.5 糸立て棒	29	画面の明るさの設定	45
収納式糸立て	29	総ステッチ数を確認する	46
		販売店情報を入力	46
		サービスデータを保存する	46

標準設定に戻す	47	ベルニナUSBメモリーからステッチパターンを呼び出す	56
ユーザーデータを消去する	47	ベルニナUSBメモリーからステッチパターンを消去する	57
布ガイド付き自動ボタンホール押え #3Aのキャリブレーション	47		
4 システム設定	48	5.7 留め縫い	57
4.1 チュートリアルを開く	48	«留め縫い»ボタンを押して留め縫いをする	57
4.2 ソーイングアドバイザーを開く	48	5.8 布地の高さを調節する	57
4.3 エコモードについて	48	5.9 角を縫う	58
4.4 ヘルプを開く	48	6 実用縫い	59
4.5 «clr»で変更を取り消す	48	6.1 実用縫い一覧	59
5 クリエイティブなソーイング	49	6.2 直線縫い	61
5.1 ソーイング選択メニューについて	49	6.3 自動留め縫いプログラムで留め縫いをする	61
ステッチパターンを選択する	49	6.4 ファスナーを縫い付ける	62
5.2 ソーイングスピードを調節する	49	6.5 ファスナーの両側を下から上に縫い付ける	63
5.3 上糸調子の設定	49	6.6 トリプル直線縫い	63
5.4 ステッチパターンの編集	50	6.7 トリプルジグザグ縫い	64
振幅を変更する	50	6.8 マニュアル式縞い縫い	64
送り長さを変更する	50	6.9 自動縞い縫い	66
バランスを調整する	50	6.10 自動補強縞い縫い	67
模様繰り返し機能を設定する	51	6.11 布端の処理をする	67
ステッチパターンを反転させる	51	6.12 ダブルオーバーロック	68
返し縫い	51	6.13 布端のトップステッチ (小幅)	68
続けて返し縫いをする	51	6.14 布端のトップステッチ (大幅)	68
5.5 ステッチパターンのコンビネーション	52	6.15 シームガイド (オプションアクセサリ) を使用したトップステッチ	69
コンビネーションモードについて	52	6.16 裾を縫う	69
ステッチパターンのコンビネーションを作成する	52	6.17 まつり縫い	70
ステッチパターンのコンビネーションを保存する	52	6.18 飾りヘムステッチ	71
ステッチパターンのコンビネーションを呼び出す	52	6.19 フラット縫い	71
ステッチパターンのコンビネーションを上書きする	53	6.20 しつけ縫い	72
ステッチパターンのコンビネーションを消去する	53	7 飾りステッチ	73
単独のステッチパターンを編集する	53	7.1 飾りステッチについて	73
ステッチパターンの一部を消去する	53	7.2 ポピンワーク	73
単独のステッチパターンを追加する	54	7.3 クロスステッチ	74
ステッチパターンのコンビネーションを反転させる	54	7.4 ピンタック	75
ステッチパターンのコンビネーションを留め縫いする	54	ピンタック	75
模様繰り返し機能を設定する	55	タックフットの概要	75
5.6 ステッチパターンを編集する	55	アクセントヤーンの引き込み	76
ステッチパターン設定を保存する	55	ピンタックを縫う	77
ステッチパターンをユーザーメモリーに保存する	55	8 アルファベット	78
ユーザーメモリー内のステッチパターンを上書きする	55	8.1 アルファベットについて	78
ユーザーメモリー内にあるステッチパターンを呼び出す	56		
ユーザーメモリー内にあるステッチパターンを消去する	56		
ステッチパターンをベルニナUSBメモリーに保存する	56		

目次

8.2	文字列を入力する	79	11.7	留め縫い	95
9	ボタンホール	80		BSRモード1で、「スタート/ストップ」ボタンを使用して留め縫いする	95
9.1	ボタンホール	80		BSR2モードでの留め縫い	95
9.2	高さ調節板を使用する	81	12	お手入れとメンテナンス	96
9.3	ボタンホール用布送りサポートを使用する	81	12.1	ファームウェア	96
9.4	ボタンホールの印をつける	81		ファームウェアのバージョンを確認する	96
9.5	ボタンホール芯	82		ファームウェアを更新する	96
	コード芯を布ガイド付き自動ボタンホール押え #3Aと一緒に使用します	82		保存したデータを復元する	96
	ボタンホール芯をボタンホール押え#3と一緒に使用します	83	12.2	ミシン	97
9.6	試し縫いをする	84		ディスプレイを掃除する	97
9.7	ボタンホールの穴幅を設定する	84		送り歯を掃除する	97
9.8	布ガイド付き自動ボタンホール押え #3Aを使用して、ボタンホールの大きさを決めます	85		釜を掃除する	98
9.9	ボタンホール押え#3を使用して、ボタンホールの大きさを決めます	85		釜に注油をする	98
9.10	布ガイド付き自動ボタンホール押えNo. 3Aを使用して、ボタンホールを自動で縫います	86		糸くず入れの掃除	100
9.11	7ステップ自動ボタンホールを縫う	86	13	エラーと故障	101
9.12	5ステップ自動ボタンホールを縫う	87	13.1	エラー表示	101
9.13	ボタンホールをシームリッパーで切り開く	88	13.2	トラブルシューティング	104
9.14	ボタンホールカッター（オプションアクセサリ）でボタンホールを切り開く	88	14	収納と処分	107
9.15	ボタンを縫い付ける	89	14.1	ミシンを収納する	107
9.16	アイレットを縫う	89	14.2	ミシンを処分する	107
10	キルティング	90	15	機械仕様	108
10.1	キルトステッチについて	90	16	パターンについて	109
10.2	キルティング用留め縫いプログラム	91	16.1	ステッチパターン	109
10.3	手縫い風ステッチを縫う	91		実用縫い	109
10.4	フリーモーションキルティング	92		ボタンホール	109
11	ベルニナステッチレギュレーター (BSR) (オプションアクセサリ)	93		飾り縫い	109
11.1	BSRモード1	93		キルトステッチ	110
11.2	BSRモード2	93		索引	111
11.3	BSR機能を直線縫いNo. 1で使用する	93			
11.4	BSR機能をジグザグ縫いNo. 2で使用する	93			
11.5	キルティングの準備をする	93			
	BSR押えを取り付ける	93			
	押え底を交換する	94			
11.6	BSRモードを使用する	94			

安全上の注意事項

当製品を使用するときは、次の基本的な安全上の注意に従ってください。当製品をご使用になる前に、この取扱説明書をよく読んでください。

危険性

感電防止のため、必ず以下の注意事項にご注意ください。

- ・ ミシンが電源に接続されている間は、絶対にミシンを放置しないでください。
- ・ 使用後すぐ、また清掃前には、ミシンの電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。

怪我の防止のため、以下の注意事項を厳守してください。

- ・ スイッチが入った状態のLEDランプを光学機器（拡大鏡など）で直接見てはいけません。
- ・ LEDランプの破損、欠陥等がある場合は、最寄りのBERNINAでLEDランプの点検または修理を受けてください。
- ・ 針周りの作業を行う前に、ミシンのスイッチを切ってください。
- ・ ミシンを起動する前に、カバーをすべて閉じてください。

警告

火傷、火災、感電、または人身事故を防ぐため、以下の注意事項を厳守してください。

一般事項

- ・ 本製品は、本取扱説明書に記載された目的以外では使用しないでください。

使用環境

- ・ 本製品は屋外で使用しないでください。
- ・ 本製品は乾燥した室内でのみご使用してください。
- ・ 本製品は湿気の多い場所では使用しないでください。
- ・ エアゾール製品（スプレー）を使用している室内で、本製品を使用しないでください。
- ・ 酸素を使用している室内で、本製品を使用しないでください。

技術的条件

- ・ 本製品は、湿気のある条件下では絶対に使用しないでください。
- ・ 本製品が正常に動作しない場合は、本製品を使用しないでください。
- ・ ケーブルまたはプラグが損傷している場合は、本製品を使用しないでください。
- ・ 本製品を落としたり、破損したり、水の中に落としたりした場合は、本製品を使用しないでください。
- ・ 本製品が破損したり、正常に動作しない場合は、最寄りのBERNINA販売店で本製品の点検または修理を受けてください。
- ・ 本製品のすべての通気孔とフットコントロールに糸くずやほこり、布地のごみが付いていないようにしてください。
- ・ 通気孔が塞がっている場合は、本製品を使用しないでください。

アクセサリーと消耗品

- ・ ベルニナ社推奨のアクセサリーのみをご使用ください。
- ・ 必ず純正品のBERNINA針板を使用してください。不適切な針板を用いると、針折れの原因になります。
- ・ 高品質の直針のみを使用してください。曲がった針や破損した針は、針折れの原因となります。
- ・ 本製品は二重絶縁されています（アメリカ、カナダ、日本を除く）。交換部品は純正のスペアパーツのみを使用してください。二重絶縁された製品のメンテナンスに関する注意事項を参照してください。
- ・ 本製品の潤滑油としては、BERNINA推奨のオイルのみをご使用ください。

適切な使用

- ・ 本製品は、8歳以上のお子様、身体的、感覚的、精神的能力が低下している方、あるいは経験や知識が不足している方でもご使用、清掃、メンテナンスを行っていただくことが可能です。
- ・ このような方は、本製品を使用する際に監督を受ける、または本製品の安全な使用方法とそれに伴う危険性について認識していることが必要となります。
- ・ ミシンはお子様の手の届かないところへ保管してください。

安全上のご注意

- ・ 本製品をお子様が使用される場合や、お子様がいらっしゃる場面で使用される場合には、特に注意が必要です。
- ・ 本製品に付属の電源コード以外は使用しないでください。
- ・ アメリカ合衆国とカナダのみ: NEMA 1-15型電源プラグは、対地電圧が150ボルトを超える回路に接続しないでください。
- ・ 本製品に付属のフットコントローラー型式 LV-1 以外は使用しないでください。
- ・ ミシンの隙間から物を差し込んだりしないでください。
- ・ フットコントロールの上に物を置かないでください。
- ・ 縫製中は徐々に布地を動かすようにしてください。
布地を引っ張ったり押したりすると、針が折れる場合があります。
- ・ ミシンの可動部分に触らないようご注意ください。
- ・ 針周辺については特にご注意ください。
- ・ 針に糸を通す、針を交換する、ルーパーに糸を通す、押え金を交換するなど、針周りの作業を行う際には、ミシンのスイッチを切ってください。
- ・ スイッチを切るには、電源スイッチを«0»に設定します。
- ・ 保護カバーを外したり、ミシンに注油するとき、または本取扱説明書に記載されているその他の清掃やメンテナンス作業を行うときは、本製品のスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- ・ プラグを持ってコンセントから引き抜きます。コードを引っ張らないようにしてください。

ミシンの安全記号

記号	意味
	可動部分に注意。 怪我のリスクを軽減するために、修理の前にミシンの電源を切ってください。

重要事項

取扱説明書について

取扱説明書はミシンの一部です。



- ・ 取扱説明書はミシンと一緒に保存し、ミシンを使用する際には常に読めるようにしてください。
- ・ ミシンを第三者に譲渡する場合には、必ず取扱説明書を添えてください。
- ・ 最新版の取扱説明書はwww.bernina.comからダウンロードできます。

使用目的について

ご使用のBERNINAミシンは、ご家庭での私的利用を目的として設計されています。取扱説明書に記載されている素材、生地へのソーイングに使用してください。その他の使用方法は当ミシンの使用目的に適用されず、それにより生じた損害において、ベルニナはその責を一切負いません。

装備と納品範囲

このマニュアルでは、説明のためにサンプル画像が使われています。図に表示されたミシンと付属品はミシンの実際の納品範囲と必ずしも一致しません。付属のアクセサリーの仕様は国により異なります。納品範囲に含まれない言及または表示された付属品は、オプションアクセサリーとしてBERNINA販売代理店で入手できます。付属品の詳細は、www.bernina.comをご参照ください。

技術的理由並びに製品改善の目的で、機械の装備と納入範囲に関する変更は、いつでも事前の通知なしに行われる可能性があります。

二重絶縁構造の製品のメンテナンスについて

二重絶縁構造の製品には、アースをとる方法の代わりに、二種類の絶縁方法が採用されています。二重絶縁構造の製品にはアースはなく、また取り付ける必要もありません。二重絶縁構造の製品のメンテナンスには細心の注意と豊富な知識が必要です。資格のある専門の方のみが行ってください。メンテナンス・修理の際には純正部品のみを使用してください。製品には「二重絶縁」または「二重絶縁構造」と表示されています。

 二重絶縁構造の製品にはこの表示がされています。

環境保護について

ベルニナインターナショナル株式会社は環境保護に準拠することを宣言しています。私達は製品の製造に当たって、製品デザインの改良、技術革新などによって製品が環境に与える影響を最小限にする努力を常に行っております。



ミシンにはゴミ箱マークが記載されています。つまり、処分することとなった場合には、家庭ごみといっしょに処分しないでください。電化製品を不適切な方法で廃棄すると、有害物質が流出することがあり、それが地下水を汚染し、食物連鎖によってやがて自分自身の健康を害することになります。

当製品が不要になった場合には、お住まいの地域のルールに従って処分、リサイクルをしていただけますようお願い申し上げます。詳しい処分方法につきましては、お住まいの市町村にお尋ねください。新しいミシンをお求めの際には、販売店で古いミシンを回収している場合もありますので、お尋ねください。

ミシンを処分される際には、あらかじめユーザーデータを消去してから処分してください。

記号について



危険

誤った扱いをすると、死亡または重傷を負う危険が非常にあります。



警告

誤った扱いをすると、重症を負う危険があります。



注意

誤った扱いをすると、軽症から中度の傷害を負う危険があります。

注意

誤った扱いをすると、物的損害が発生する恐れがあります。



ベルニナソーイングエキスパートからのヒントです。

1 マイベルニナ

1.1 はじめに

BERNINA 485では、シルクやサテンのような薄地から、麻、フリースそしてデニムなどの厚地まで、簡単に縫うことができます。多彩な実用縫いステッチや飾りステッチ、ボタンホールが搭載されています。

当ミシンは、取扱説明書に加えて次のようなサポートツールを備えており、BERNINA 485を使用する際にいつでも詳細情報やサポートを提供します。

チュートリアルでは、ソーイングや様々なステッチに関する情報や説明を見ることができます。

ソーイングアドバイザーでは、作品製作のお手伝いをします。布地と縫いたいものを入力すると、適した針とそれに合う押え金などの提案が表示されます。

ヘルププログラムでは、ステッチパターン、機能およびユーザーインターフェースの使用方法について表示します。

その他の情報について



取扱説明書では、この他にもご使用のBERNINA 485についての製品情報を記載しています。

取扱説明書の最新バージョンとミシンやアクセサリに関するその他の情報は弊社ウェブサイト <https://www.bernina.com>からご覧ください。

1.2 ベルニナの世界へようこそ

ベルニナのスローガンはMade to createです。ミシンだけではなく、私たち自身もあなたのアイデアを形にするお手伝いをします。下記のオファーに加えて、お客様の今後のプロジェクトのために多くの提案や指示、および他のソーイングやキルティング、刺しゅうの愛好家とアイデアを交換する機会も提供しています。ぜひご利用ください。

ベルニナYouTubeチャンネル



YouTubeでは、当社のミシンの最も重要な機能に関するさまざまな操作方法の動画とサポートを提供しています。作品の縫製を成功に導く押え金やアクセサリの詳しい説明もご覧いただけます。

youtube.com/BerninaInternational

英語とドイツ語でご利用いただけます。

「インスピレーション」 - クリエイティブな裁縫雑誌と裁断パターンのオンラインストア



素晴らしい作品を縫製するためのアイデア、縫製パターン、および作成手順をお探しですか? そうであればベルニナの雑誌「インスピレーション」こそが、あなたが求めているものです。インスピレーションでは、年に3回、素晴らしい裁縫や刺しゅうのアイデアをお届けします。季節ごとのファッショントレンドから流行のアクセサリ、実用的なヒント、ご自宅のオリジナルデコレーション、お子様向けのかわいい裁縫アイデアまでの豊富な内容です。

この雑誌は英語、ドイツ語、オランダ語、フランス語で出版されています。

当社のオンラインショップでは、「インスピレーション」を電子雑誌または印刷版として、個別号または定期購読にてご購入いただけます。さらに、ダウンロード可能な個別のカッティングパターンも多数あります。ご覧ください:

inspiration.bernina.com

インスタグラム ([inspiration.sewing.magazin](https://www.instagram.com/inspiration.sewing.magazin)) でフォローしてください。

ベルニナブログ



洗練された説明、無料の縫製パターンと刺しゅうデザイン、そして多くの新しいアイデア: これらすべては、BERNINAの週刊ブログでご覧いただけます。当社の専門家が役立つヒントを提供し、望ましい結果を達成する方法を段階的に説明します。コミュニティでは、自分の作品をアップロードし、他の縫製や刺しゅうの愛好家と経験やアイデアを交換できます。

www.bernina.com/blog

英語、ドイツ語、オランダ語、フランス語でご利用いただけます。

ベルナナソーシャルメディア



ソーシャルネットワークをフォローして、縫製、キルティング、刺しゅうに関するイベント、エキサイティングなプロジェクト、ヒントやコツなどについて詳しく学びましょう。今後もお客様に情報をお伝えし、ベルナナの世界のハイライトをお届けできることを楽しみにしています。

bernina.com/social-media

BERNINA World App



App Storeからベルナナアプリをスマートフォンにダウンロードすると、すべての製品情報に直接アクセスできます。アクセサリオーガナイザーを使用すると、現在お持ちのアクセサリや必要なアクセサリの概要を把握できます。さらに、お客様ポータル、ブログ、および「インスピレーション」オンラインストアに直接アクセスでき、いつでもお近くのベルナナ販売店を見つけることができます。このアプリは、Apple AppストアとGoogle Playストアで入手できます。

直接リンクは次の場所にあります:www.bernina.com/app

1.3 ミシンについて
操作部について (前)



- 1 返し縫い
- 2 糸切り
- 3 留め縫い
- 4 スタート/ストップ
- 5 模様終わり

- 6 針 上/下
- 7 押え圧
- 8 多機能ボタン 上
- 9 多機能ボタン 下
- 10 針 左/右

各部の名称 (前)



- | | | | |
|---|-------------|----|--------------|
| 1 | 釜カバー | 7 | 天秤保護カバー |
| 2 | 押え金 | 8 | 天秤 |
| 3 | 糸通し | 9 | 糸切り |
| 4 | ソーイングライト | 10 | 針取り付けネジ |
| 5 | 糸切り | 11 | ソーイングテーブル取付部 |
| 6 | スピードコントローラー | 12 | 押え上げレバー取付部 |

各部の名称 (横)



- 1 フットコントローラー接続部
- 2 送り歯 上/下
- 3 サービス接続部
- 4 USB接続部
- 5 糸立て
- 6 下糸巻き装置

- 7 収納式糸立て
- 8 通気溝
- 9 はずみ車
- 10 電源
- 11 電源コード用ソケット
- 12 タッチペン用マグネット式ホルダー (オプションアクセサリ)

各部の名称 (後)



- | | | | |
|---|----------------|----|------------------|
| 1 | 通気溝 | 9 | 下糸巻き装置 |
| 2 | ソーイングテーブル取付部 | 10 | ボビン巻き取り器プリテンショナー |
| 3 | 繕い縫いアタッチメント取付部 | 11 | 天秤 |
| 4 | 押え上げレバー | 12 | 糸ガイド |
| 5 | キャリングハンドル | 13 | 糸切り |
| 6 | 糸立て | 14 | BSR接続部 |
| 7 | 糸ガイド | 15 | 送り歯 |
| 8 | 収納式糸立て | 16 | 針板 |

1.4 付属アクセサリ



付属およびオプションのアクセサリに関する詳細情報とアプリケーションノートは、こちらをご覧ください
www.bernina.com/485#!accessories

アクセサリについて

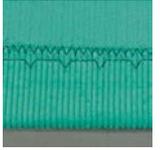
図	名称	用途
	保護カバー	ほこりや汚れからミシンを保護します。
	ベルナアクセサリボックス	付属アクセサリおよびオプションアクセサリを保管します。
	押え上げレバー／フリーハンドシステム(FHS)	押え金を上げ下げすることができます。
	ソーイングテーブル	作業スペースの拡大に。
	糸こま押さえ	糸こまから均等な糸送りができます。
	B9釜のポビン 4つ	下糸を巻く為のアクセサリです。
	糸こまクッション 1つ	糸こまクッションは、糸巻きの糸がズレたり、もつれたり、切れたりするのを防ぎます。
	シームリッパー	縫い目を解いたり、ボタンホールを作る際に使用します。
	高さ調節板	布地の厚みの差を補い、押え金が斜めになるの防ぎ、布の動きをスムーズにします。
	標準針セット	すべての用途に。
	赤色の小型ドライバー（マイナス）	マイナスネジ用ドライバー。

図	名称	用途
	ブラシ	送り歯や釜周辺を掃除する際に使用します。
	ミシン油	ミシン注油のため
	電源コード	ミシンと電源を接続します。
	フットコントローラー	ミシンをスタート、ストップさせます。 ミシンのスピードをコントロールします。

押え金について

付属の標準押え

図	番号	名称	用途	例
	#1	標準押え	実用縫いと装飾ステッチに。 前進縫いと返し縫いのために。 コーデュロイ、デニム、ウールなどの生地。	
	#2	オーバーロック縫い押え	かがり縫いに。 袋縫いに。 ストレッチ生地の目立つ縫い目に。	
	#3A	布ガイド付き自動ボタンホール押え	フィラーコードの有無にかかわらずボタンホールを自動縫製する場合に。 ボタンホールの長さは最大30mmまで保存できます。	

図	番号	名称	用途	例
	#4	ファスナー押え	ファスナーの縫い付けに。 盛り上がった縫い目の横の段縫いに。 組紐、ケダー、面ファスナーの縫い付けに。	
	#5	まつり縫い押え	まつり縫いの裾の裁縫に。 押え金の左側にガイドされたエッジのステッチに。	

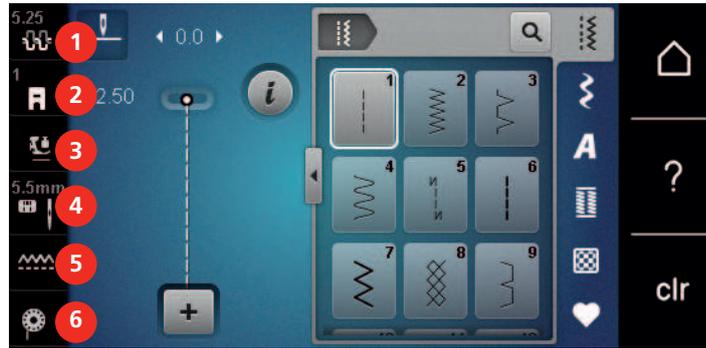
アクセサリボックス



- | | | | |
|---|---------|---|---------------------|
| 1 | 引き出し | 5 | クッション付き糸こまカバー |
| 2 | 押え金 | 6 | 布ガイド付き自動ボタンホール押え |
| 3 | 糸こま立て | 7 | 針セット |
| 4 | 糸こまキャップ | 8 | 5.5 mmの押え足用の押え金ホルダー |

1.5 ユーザーインターフェースについて

機能／表示について



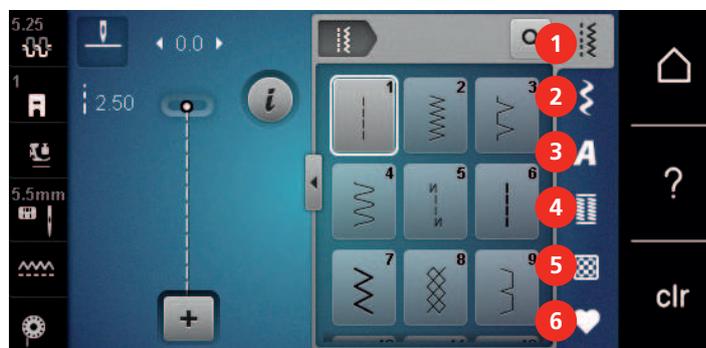
- | | | | |
|---|---------------|---|----------|
| 1 | 《上糸調子》 | 4 | 《針板／針選択》 |
| 2 | 《押え金表示／押え金選択》 | 5 | 《送り歯表示》 |
| 3 | 《押え金圧力》 | 6 | 《下糸》 |

システム設定について



- | | | | |
|---|---------------|---|----------|
| 1 | 《ソーイングモード》 | 5 | 《エコモード》 |
| 2 | 《セットアッププログラム》 | 6 | 《ホーム》 |
| 3 | 《チュートリアル》 | 7 | 《ヘルプ》 |
| 4 | 《ソーイングアドバイザー》 | 8 | 《設定をクリア》 |

ソーイング選択メニューについて



- | | | | |
|---|-----------|---|--------------|
| 1 | 《実用縫い》 | 4 | 《ボタンホール》 |
| 2 | 《飾りステッチ》 | 5 | 《キルトステッチ》 |
| 3 | 《アルファベット》 | 6 | 《パーソナルプログラム》 |

ソフトウェアの操作

タッチ画面は指または入力棒を使って操作可能です。

タップ 要素を短くタッチします。

スワイプ：アイコンに触れてそのまま素早く画面を滑らせるようにします。

スクロール 画面をタッチし、ゆっくりと一定方向に動かします。例えば上下にスクロールすることができます。

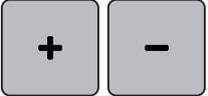
ナビゲーション

図	名称	用途
	«ホーム»	«ホーム画面»を表示します。
	ナビゲーション・パス	前のメニューレベルを表示します。
	«閉じる»	ウィンドウを閉じます。
	その他	その他の機能や情報を表示します。
	次へ	通知を次へスクロールします。
	戻る	通知を前へスクロールします。

機能のアクティブ化/非アクティブ化

図	エレメント	ステータス
	スイッチ	機能はアクティブ化されました。
		機能は非アクティブ化されました。
	アイコン	機能は非アクティブ化されました。
		機能はアクティブ化されました。

値の調整

図	名称	用途
	スライダーコントロール	スライダーコントロールで値を設定します。 デフォルト値を表示します。
	アイコン«プラス» / «マイナス»	«プラス»をタッチして値を大きくし、«マイナス»をタッチして値を小さくします。
	黄色のフレーム	設定値がデフォルト値と異なることを示します。 タップして値を基準値にリセットします。

テキストと数字の入力

数値とテキストの入力用に、対応するキーボードが表示されます。



図	名称	用途
	入力フィールド	入力値を表示します。 タップして、入力されたすべての文字を削除します。
	«消去»	最後の文字を消去します。
	«小文字»	使用可能なアルファベットを小文字で表示します。
	«大文字»	使用可能なアルファベットを大文字で表示します。
	«数字および数学記号»	使用可能な数字と数学記号を表示します。
	«特殊文字»	使用可能な特殊文字を表示します。
	«決定»	入力を確定し、サブメニューを終了します。
	«キャンセル»	入力をキャンセルし、ビューウィンドウを閉じます。

1.6 針、糸、布地

時間の経過とともに、針は摩耗します。そのため、定期的に交換する必要があります。美しい縫い目を作るには、完璧な針先が必要です。一般的には、生地が薄ければ薄いほど、針も細くする必要があります。ここに掲載されている針は、ミシンによって標準またはオプションの付属品となります。

- ・ 針サイズ 70、75：薄手の布地に適しています。
- ・ 針サイズ 80、90：中程度の厚さの布地に適しています。
- ・ 針サイズ 100、110、120：厚手の布地に適しています。

針について

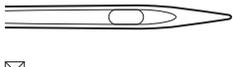
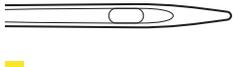
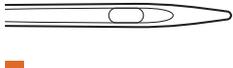
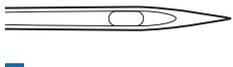
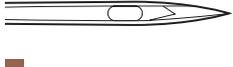
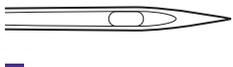
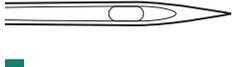
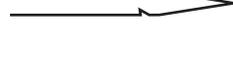
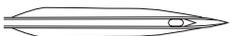
図	針の名称	針の特徴	用途
	標準針 130/705 H 60-120	針先は少し丸みを帯びている	ほぼ全ての天然および合成繊維（織地およびニット、編地）に。
	ストレッチ針 130/705 H-S 75, 90	中ボールポイント、特殊な針孔とえぐり	ジャージー、トリコット、ニットおよびストレッチ素材に。
	ジャージー／刺しゅう針 130/705 H SUK 60-100	中ボールポイント	編地、ニットおよび刺しゅうに。
	ジーンズ用針 130/705 H-J 80-110	針先は鋭く細く、シャフトは補強されている	ジーンズや帆布などの厚地に。
	皮革用針 130/705 H LR 90, 100	カッティングポイント (LR=斜めに傾いたステッチ)	全ての皮、ビニール、合成皮革、プラスチック素材およびフェイェル地に。
	マイクロテックス用針 130/705 H-M 60-110	針先は特に鋭く細い	マイクロファイバー地やシルクに。
	キルティング針 130/705 H-Q 75, 90	針先は少し丸みを帯び、細い	直線縫いやトップステッチに。
	刺しゅう針 130/705 H-E 75, 90	小ボールポイント、特に大きな針孔と幅の広い溝が特徴	全ての天然繊維および合成繊維での刺しゅうに。
	薄地用針 130/705 H SES 70, 90	小ボールポイント	薄地の編地およびニット、薄く繊細な布地への刺しゅうに。
	金属糸用針 130/705 H METAFIL 80	大きな針孔 (2 mm)、全番手	メタリック糸に。
	補修用針 130/705 H-N 70-100	大きな針孔 (2 mm)、全番手	太い糸を使つてのトップステッチに。
	フェルティング用針 PUNCH	逆さ鉤の付いた針	フェルティングに。

図	針の名称	針の特徴	用途
 ☒	縁飾り縫い用針 130/705 H WING 100-120	シャフトが羽のような形の幅の広い針	ヘムステッチに。
 ☒	標準二本針 130/705 H ZWI 70-100	針の幅： 1.0/1.6/2.0/2.5/ 3.0/4.0/6.0/8.0	ストレッチ素材の裾や ピントック、飾り縫い に。
 ☒	ストレッチ素材用二本針 130/705 H-S ZWI 75	針の幅：2.5/4.0	ストレッチ素材の裾や ピントック、飾り縫い に。
 ☒	ヘムステッチ用二本針 130/705 H ZWIHO 100	針の幅：2.5	ヘムステッチ刺しゅう の特殊効果に。
 ☒	標準三本針 130/705 H DRI 80	針の幅：3.0	ストレッチ素材の裾や 飾り縫いに。

針の種類

家庭用ミシンで最も一般的な130/705システムは、ジャージー/ストレッチ針の次の図で説明されています。

	<p>130/705 H-S/70</p> <p>130 = シャンク長さ (1)</p> <p>705 = フラットシャンク (2)</p> <p>H = 針スカーフ (3)</p> <p>S = ニードルポイント (ここでは中型ボールポイント) (4)</p> <p>70 = 針のサイズ0.7 mm (5)</p>
---	---

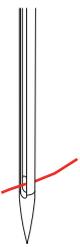
糸の選択

仕上がりをよりよくするためには、針、糸および布地の質が重要です。

よりよい作品を作っていただくために、高品質な糸を使用されることをお勧めします。

- ・ コットン糸 (木綿糸) は天然繊維を使用した糸で、綿素材の布地を縫う際に最適です。
- ・ シルケット加工されているコットン糸は、軽く光沢があり、洗濯をしても変わりません。
- ・ ポリエステル糸は耐久性が高く、特に色あせない性質を持っています。
- ・ ポリエステル糸はコットン糸より伸縮性があり、強度や伸縮性が必要な作品に適しています。
- ・ レーヨン/ビスコース糸は天然繊維を使った、非常に光沢のある糸です。
- ・ レーヨン/ビスコース糸は飾り縫いに適していて、仕上がりが美しくなります。

針と糸の組み合わせ

	<p>ソーイングの際に、糸が針の溝と糸穴を緩過ぎず、きつ過ぎず、すっと通れば、正しい糸と針の組み合わせになり、最適な縫い目で縫うことができます。適正に縫うことができます。</p>
	<p>糸が細すぎると、溝と糸穴の中で糸が不安定になり、糸が切れたり、縫い目が乱れたりします。</p>
	<p>糸が太すぎると、糸が溝の端とすれたり、糸穴を滑らかに通らないので、糸が切れたり、絡んだりします。</p>

2 ソーイングの準備

2.1 初めてミシンをご使用になる前に



ベルニナでは、初めて機械を使用する前や長期間使用しなかった後には、釜にオイルを塗ることをお勧めしています。(参照ページ: 98)

釜にオイルを塗ることで、釜部での不要なノイズの発生を防ぐことができます。

2.2 アクセサリーボックス

アクセサリーボックスの取り外しと取り付け

アクセサリーボックスは磁石によってミシンに固定されます。取り付ける際は、引き出しをアクセサリーボックスに組み込む必要があります。

- > 持ち運び用のハンドルを上に戻して、所定の位置に固定します。
- > アクセサリーボックスを少し前に傾けて引き抜きます。



- > アクセサリーボックスのドアを閉じます。
- > 押え上げレバーを押し下げます。
- > アクセサリーボックスの背面をミシンに向けてミシンに取り付けます。

アクセサリの収納方法

- > ボビン、押え足、針用のホルダー (1) を挿入します。
- > 引き出し (2) に油差しなどの小さな部品を保管します。
- > 銀色のセンサー面が右側になるようにボビンを収納部 (3) に配置します。
- > ボビンを取り外すには、ボビン収納部を押し下げます。
- > 小型スプールディスクと中型スプールディスクをピン (4) に取り付けます。
- > クッション付き糸こまカバーを収納部 (5) に保管します。
- > 布ガイド付き自動ボタンホール押え #3Aを収納部 (6) に保管します。
- > 付属のアソートメント針セットは特別収納部 (7) に保管します。
- > 押え金をホルダー (1) に保管します。



2.3 接続と電源

フットコントローラーを接続する

> フットコントローラーの下側にある接続ケーブルを必要な長さに伸ばします。



> 接続ケーブルのプラグを本機に差し込みます。



> フットコントローラーをテーブルの下に設置します。

ミシンを電源に接続する

本機を安全にお使いいただくため、付属の電源コードをご使用ください。付属の電源コードは、使用する国の電圧範囲に合わせて設計されています。本機を原産国以外の国で使用する場合は、その国に適した電源コードをBERNINAの販売店から入手する必要があります。

アメリカおよびカナダ用の電源コードのプラグは有極プラグです（片方の端子の幅がもう片方より広くなっています）。感電のリスクを低くするために、プラグはコンセントに正しく差し込んでください。電源プラグがコンセントに合わない場合は、電源プラグを逆さにして差し込んでください。逆さにしても電源プラグが入らない場合は、電気技師に適切なコンセントを設置してもらう必要があります。絶対にプラグを改造しないでください。

> ケーブルの接続プラグを本機のコード接続口に差し込みます。



> ケーブルのもう一方の端のプラグをコンセントに差し込みます。

押え上げレバーを取り付ける



押え上げレバーの角度は、使いやすさに合わせて、ベルニナミシン専門店で調節することができます。

ソーイングの準備

- > 押え上げレバーをミシン前面の取り付け穴に差し込みます。
- > 椅子の高さを押え上げレバーを膝で動かせる位置に調節します。



タッチペンを取り付ける (オプションアクセサリ)

- > タッチペンをマグネット式ホルダーに付けます。



ミシンの電源を入れる

- > メインスイッチを「I」にします。



2.4 フットコントローラー

ソーイングスピードをフットコントローラーでコントロールする

フットコントローラーで、スピードを連続的に調節することができます。

- > スタートさせるには、フットコントローラーをゆっくりと踏み込みます。
- > 速く縫いたいときは、フットコントローラーを深く踏み込みます。
- > ミシンを止めるには、フットコントローラーを離します。



追加機能の有効化／無効化

フットコントローラーには、かかとで圧力を加えることで起動・停止できる第2の機能をプログラムすることが可能です。出荷時の設定では、かかとスイッチには「針の上げ／下げ」機能がプログラムされています。

> 針を上げる、または下げるには、フットコントローラーをかかとで下に踏み込みます。



かかとスイッチに別の機能をプログラムすることも可能です。(参照ページ: 44)

2.5 糸立て棒

収納式糸立て

糸立てを出す

収納式糸立ては、複数の糸を使用するソーイングの際や、ソーイングの途中に下糸を巻く際に使用します。

- > 指で収納式糸立てを押して離します。
 - 収納式糸立ては自動的に上に上がります。



糸こまクッションと糸こまを取り付ける

糸こまクッションは、糸が収納式糸立てに絡まるのを防ぎます。

- > 糸こまクッションを、収納式糸立てに取り付けます。
- > 糸こまを糸立てに取り付けます。



平行糸立て棒

糸こまクッション、糸こま、糸こま押えを取り付ける

糸こま押えを使用すると、糸こまから均等な糸送りができます。糸こま押えは平行糸立て棒でのみ使用します。

- > 糸こまクッションを糸立て棒に取り付けます。
- > 糸こまを糸立て棒に取り付けます。
- > 糸こま押えと糸こまの間に隙間が開かないように、ぴったり合った糸こま押えを取り付けます。



糸こまネットを使用する

糸こまネットは糸を糸こまに保ち、糸がもつれたり切れるのを防ぎます。

- > 利用可能な場合は、糸こまの上に糸こまネットをかぶせます。糸こまの上でネットを2回折りたたむか、ネットの一部を糸こまの後ろに挿入するなどして、糸こまネットが糸こまから滑り落ちないようにしてください。



2.6 送り歯

送り歯の調整

- > 送り歯を下げるには、「送り歯 上/下」ボタンを押します。



- > 送り歯を上げるには、「送り歯 上/下」ボタンをもう一度押します。

送り歯の調整



- > 「送り歯表示」をタップします。
- > 表示された図に応じて、送り歯が上下します。

2.7 ソーイングテーブル

ソーイングテーブルを取り付ける

フリーアームに取り付けられたスライドテーブルで、既存の縫製エリアをさらに広げることができます。

- > 針を上げます。
- > 押え金を上げます。

- > スライドテーブルを、フリーアームの上に左から右へ、ロックされるまでスライドさせます。



- > ソーイングテーブルを取り外すには、フリーアーム上でソーイングテーブルを左にスライドさせます。



2.8 押え金

押え上げレバーで押え金の位置を変える

- > 押え上げレバーをひざで操作できるように、いすなどの高さを調節してください。
- > 押え上げレバーを右に押すと、押え金が上がります。



- 同時に送り歯が下がり、糸のテンションが緩みます。
- > 押え上げレバーからゆっくりとひざを離すと、押え金が下がります。

押え金を交換する

- > 針を上げます。
- > 押え金を上げます。
- > ミシンの電源を切ります。
- > 取り付けレバーを上押し上げます。 (1)
- > 押え金を引き離します。 (2)



- > 新しい押え金を下からホルダーの中に差し込みます。
- > 取り付けレバーを下に押し下します。

ユーザーインターフェースで押え金を選択する

選択したステッチごとに、推奨される押え金とその他の代わりとなる押え金がマシンに表示されます。

前提条件：

- ・ ミシンの電源が入っています。
- > ステッチパターンを選択します。
 - アイコン「押え金表示／押え金選択」で、推奨される押え金が番号で表示されます。
- > 「押え金表示／押え金選択」をタップします。
- > 押え金の領域をワイプすると、より多くの押え金が表示されます。
- > 押え金をタップすると、その押え金の説明と用途が表示されます。



押え圧の設定

あらかじめ設定された標準押さえ圧は、一般的な縫製作業に使用できます。トリコット生地や編み目の粗い生地の場合は、押さえ圧を下げてください。硬い生地の場合は、押さえ圧を上げてください。



押え金圧を使用して、布の厚さに合わせて押え金の圧力を最適に調整することができます。厚い生地の場合は、押え金圧を下げることをお勧めします。これにより、生地の動きが良くなるという利点があります。押え金圧を0未満に設定すると、押え金がさらに上がり、厚い布地に余裕ができます。薄い生地の場合は、押え金圧を上げることをお勧めします。これには、押え金の下で生地が滑りにくくなるという利点があります。



- > ノブを右に回すと、押さえ圧が下がります。
- > ノブをさらに右に回すと、押え金が上がります。
- > ノブを左に回すと、押さえ圧が上がります。

2.9 針と針板

針を交換する

- > ミシンの電源を切ります。
- > 押え金を取り外します。
- > 針取り付けネジを緩めます。



- > 針を下に引っ張ります。
- > 新しい針を平らな面を後ろ側にして持ちます。
- > 針を上までしっかりと差し込みます。
- > 針取り付けネジを締めます。

ユーザーインターフェースで針を選択する

針を交換した後、その針が選択したパンチワーク用針板に適しているかどうかを確認します。



- > «針板／針選択»をタップします。
- > 取り付けした針を選択します。



針の種類と針のサイズの確認

実用的なメモリー機能：情報が失われないように、針の種類と針のサイズをミシンに保存することも可能です。これにより、保存された針の種類と針のサイズをいつでも確認することができます。



- > «針板／針選択»をタップします。



- > «針の選択»をタップします。
- > 装着する針の種類を選択してください。
- > 装着する針のサイズを選択してください。

針位置 上／下を設定する



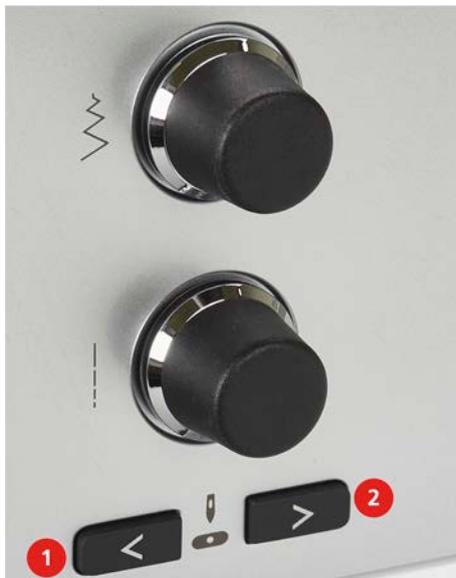
- > 針を下げるには、「針位置 上/下」ボタンを押します。
- > 針を上げるには、もう一度「針位置 上/下」ボタンを押してください。

針基線 左／右を設定する

針の位置は全部で11か所あります。針の位置はディスプレイ上に針位置番号で表示されます。

- > ボタン (1) «針位置 左» を押すと、針の位置が左に移動します。

- > ボタン (2) «針位置 右» を押すと、針の位置が右に移動します。



針停止 上/下 (常時) を設定する



- > 針の停止位置を常時設定しておくには、「針停止 上/下」をタップします。
 - フットコントローラーを離すか、「スタート/ストップ」ボタンを押すと、ミシンは針位置を下げた状態で停止します。
- > «針停止 上/下」をもう一度タップします。
 - フットコントローラーを離すか、「スタート/ストップ」ボタンを押すと、ミシンは針位置を上げた状態で停止します。

針板を交換する

パンチワーク用針板には、縦方向、横方向、斜め方向のマーキングがミリメートル (mm) とインチ (inch) で表示されています。これらのマーキングは布ガイドとして、また正確なトップステッチをする際に便利です。

- > 送り歯を下げます。
- > ミシンの電源を切ります。
- > 針と押え金を取り外します。
- > パンチワーク用針板の右上の印を押して、針板を浮かせます。



- > パンチワーク用針板を取り外します。
- > パンチワーク用針板の穴をそれぞれの突起部分に合わせ、しっかりとまるまで下に押し込みます。

針板をユーザーインターフェースで選択する

針板を交換した後、その針板が選択した針に適しているかどうかを確認します。



- > «針板／針選択»をタップします。
- > 先に装着した針板を選択します。



- 選択した針板と針との組み合わせが適切であれば、縫製を開始することができます。
- 選択した針板が針との組み合わせに適していない場合、エラーメッセージが表示され、自動的にミシンが起動できないようになっています。

2.10 糸をかける

上糸をかける

糸掛けの準備

- > 糸こまクッションを糸立てに取り付けます。
- > 時計周りに糸がほどけるように、糸こまを糸立てに取り付けます。
- > 適当なサイズの糸こま押えを取り付けます。
- > ミシンのスイッチを入れ、起動するまで待ちます。
- > 針と押え金を挙げます。

糸を針まで持ってきます。

- > 糸こまと後ろの糸ガイド(1)の間で、糸を片手で持ちます。他方の手で糸の端をつかみ、次のステップの間常に軽く張っておきます。
- > 糸を矢印の方向に引き、テンションディスク (2) にかけます。



- > 糸を下から天秤カバー (3)の周りを上方向にかけます。

ソーイングの準備

- > 天秤 (4) に糸を挿入します。



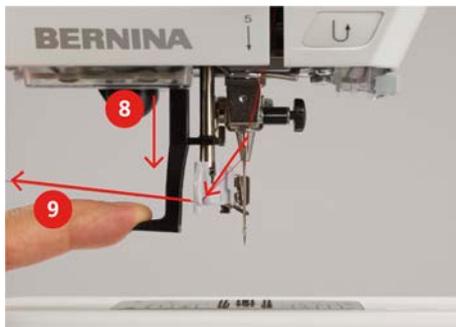
- > 糸を再び下方向へ (5) 持っていきます。
- > ここで初めて糸を放します。
- > ミシンの電源を切ります。

針を通す

- > 糸を押え金上部の糸ガイド(6/7)に通します。

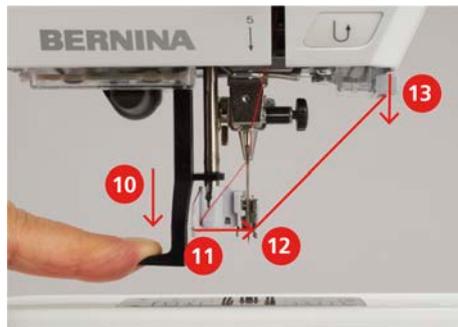


- > 半自動の糸通しレバー (8) を半分押し下げ、押したままで糸をグレーの糸通しフック (9) の後ろの糸を左に引きます。



- > 糸を左から右にグレーの糸通しフック (11) の前にかけます。
- > 糸通しレバーを止まるまで押し下げます (10)。
- > ワイヤフックに掛かるまで、糸を左から右へ(11) 針穴(12) に通します。

- > 糸を後ろから糸切り(13)の上に引っ張り、切断します。



- > 糸通しレバーと糸から同時に手を離すと、針に糸が通ります。
 - 糸を針穴を通して引き出します。
- > 糸のつまみ(14)を、糸の端が針を通して引き出るまで後ろに引っばります。



- > 押え金の下の糸を糸切り(15)まで引っ張り、切断します。



二本針に糸を通す

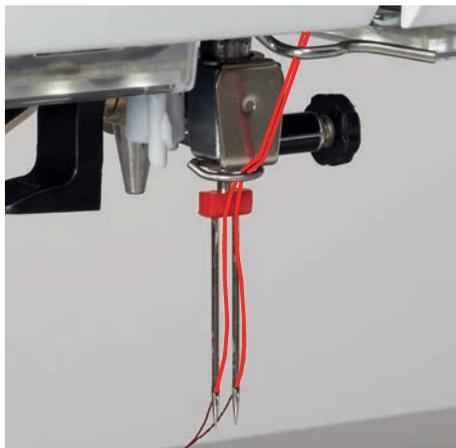
前提条件：

- ・ 二本針を取り付けます。
- > 一本目の糸を、矢印のようにテンションディスク(1)の右側にかけます。
- > 二本目の糸を、矢印のようにテンションディスク(1)の左側にかけます。



- > 一本目と二本目の糸を針の上の糸ガイドまで通します。
- > 一本目の糸を右の針に通します。

- > 二本目の糸を左の針に通します。



三本針に糸を通す

前提条件：

- ・ トリプル針を取り付けます。
- > 糸こまクッション、糸こまおよび対応する糸こま押えを横の糸立てに差し込みます。
- > 糸こまクッションを縦の糸立てに取り付けます。
- > 糸を巻いたボビンを銀色のセンサー部分が下に来るように、縦の糸立てに取り付けます。
- > 糸こまをボビンの反対側に取り付けます。
- > 3本の糸を上糸ガイドまで通します。



- > 2本の糸（縦の糸立て）をテンションディスク（1）の左側に通し、針の上糸ガイドまで通します。
- > 残りの1本（横の糸立て）をテンションディスク（1）の右側に通し、針の上糸ガイドまで通します。
- > 縦の糸立ての糸を左右の針に手で1本ずつ通します。
- > 横の糸立ての糸を手で中央の針に通します。

下糸を巻く



収納式糸立てを使用すれば、ソーイング中でも下糸を巻くことができます。

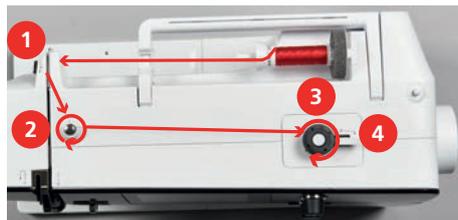
前提条件：

- ・ 糸こまクッション、糸こま、糸こま押えを取り付けます。
- > 空のボビンを銀色のセンサー部分が下に来るように、下糸巻き装置に取り付けます。



- > 糸を左方向、後側の糸ガイド（1）に通します。
- > 糸をボビン巻き取りプリテンショナー（2）に時計回り方向に通します。
- > 糸を空のボビン（3）に2～3回、時計回りに巻きつけます。

> 糸を糸巻きスイッチ (4) にある糸切りで切ります。



> 糸巻きスイッチ (5) をボビンの方向に押します。



- ミシンが下糸を巻きます。

> 糸巻きを停止するには、糸巻きスイッチを右に押します。

> 糸巻きスイッチをもう一度ボビンの方向に押すと、糸巻きが続行します。

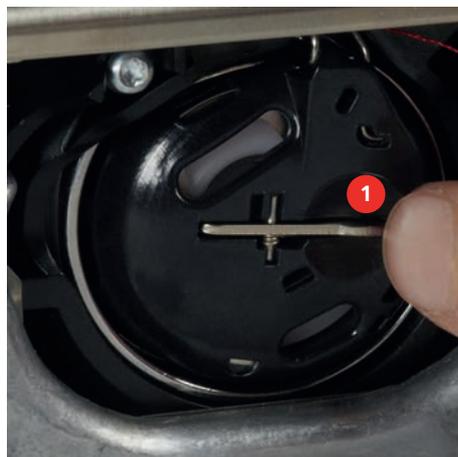
- ボビンがいっぱいになると、ミシンは自動的に糸巻きを終了します。

> ボビンを取り外して、糸を糸巻きスイッチの糸切りで切ります。

下糸をかける

前提条件：

- ・ 針が上がっていること。
 - ・ ミシンの電源を切り、釜カバーを開けます。
- > ボビンケースの取り出しレバー(1)を押します。



> ボビンケースを取り出します。

> ボビンケースからボビンを外します。

ソーイングの準備

> 新しいボビンを、銀色のセンサー部分が奥側になるように、ボビンケースに取り付けます。



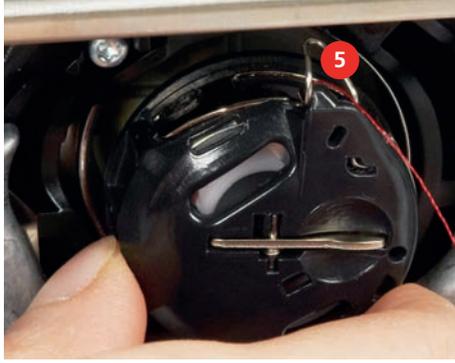
> 糸を左から溝(2)に通します。



> 糸を糸調子パネ(3)の下に通して右に引き、さらに2つの糸ガイド(4)に通して、上に引きます。



- > ボビンケースを、糸ガイド(5)が上にくるようにして持ちます。



- > ボビンケースを取り付けます。
- > ボビンケースの中央を押して、しっかりとめ込みます。
- > 糸を糸切り(6)に通して切ります。



- > 釜カバーを閉じます。

下糸をかける



- > «下糸»をタップします。
- > アニメーションに沿って糸通しをします。

3 セットアッププログラム

3.1 ソーイング機能の設定

上糸調子を設定する

セットアッププログラムで変更した上糸調子は、すべてのステッチパターンに有効になります。セットアップで変更した内容は、ミシンの電源を切っても保存されたままになります。



> «ホーム»をタップします。



> «セットアッププログラム»をタップします。



> «ソーイング設定»をタップします。



> «上糸テンションを調節します。»をタップします。
> 上糸調子を調節します。

ソーイングスピードの最高速度を設定する

この機能により、最高速度を設定できます。



> «ホーム»をタップします。



> «セットアッププログラム»をタップします。



> «ソーイング設定»をタップします。



> «最大ソーイングスピード»をタップします。
> 最高速度を設定します。

留め縫いを設定する

この機能をオンにすると、糸切り後、パターンの始まりで自動的に4針留め縫いされます。



> «ホーム»をタップします。



> «セットアッププログラム»をタップします。



> «ソーイング設定»をタップします。



> «パターンの始まりでの留め縫い» をオンまたはオフにします。

糸切りボタンをプログラムする

糸切り前の自動留め縫いを設定することができます。



> «ホーム»をタップします。



> «セットアッププログラム»をタップします。



> «ソーイング設定»をタップします。



> «ボタンとフィールドをプログラムする»をタップします。

-  > «糸きりボタンをプログラムする»をタップします。
-  > 自動留め縫いを有効にするには、「留め縫い」をタップします。
> 自動留め縫いを無効にするには、「留め縫い」をもう一度タップします。
-  > 連続した留め縫いを設定するには、「前方向の留め縫い」をタップします。
> 留め縫いの数を設定するには、「マイナス」または「プラス」をタップします。
-  > 留め縫いを4針同じ位置に設定するには、「一か所での留め縫い」をタップします。

留め縫いボタンをプログラムする

針数と留め縫いの種類をプログラムすることができます。

-  > «ホーム»をタップします。
-  > «セットアッププログラム»をタップします。
-  > «ソーイング設定»をタップします。
-  > «ボタンとフィールドをプログラムする»をタップします。
-  > «留め縫いボタンをプログラムする»をタップします。
-  > «留め縫いの針数を変更する»アイコンをタップして、留め縫いの針数を設定します。
> 留め縫いの針数を設定します。
-  > «同位置で留め縫いをする»アイコンをタップして、同位置で留め縫いを4針縫うように設定します。

«返し縫い»ボタンをプログラムする

«連続返し縫い」と«バックステップ縫い»から選ぶことができます。

-  > «ホーム»をタップします。
-  > «セットアッププログラム»をタップします。
-  > «ソーイング設定»をタップします。
-  > «ボタンとフィールドをプログラムする»をタップします。
-  > «連続返し縫いをプログラムする»をタップします。
-  > バックステップ縫いを設定するには、「バックステップ»をタップします。
-  > 連続返し縫いを設定するには、「連続返し縫い»をタップします。

フットコントローラーをプログラムする

「針 上/下」を有効にすると、フットコントローラを後ろに蹴ることで針が上がったり下がったりします。あるいは、留め縫いをプログラムし、自動糸カッターを作動させることもできます。



> 「ホーム」をタップします。



> 「セットアッププログラム」をタップします。



> 「ソーイング設定」をタップします。



> 「フットコントローラーをプログラムする」をタップします。



- 「針 上/下」は、デフォルト設定では有効になっています。
- フットコントローラを後ろに蹴ると、針が上がったり下がったりします。



> バックキックをプログラムするには、「かかとスイッチをプログラムする」を参照してください。



- > バックキックによる自動留め縫いを無効にするには、「留め縫い」をタップします。
- > バックキックによる自動留め縫いを有効にするには、「留め縫い」を再度タップします。



- > その後の留め縫いをプログラムするには、「前方向の留め縫い」をタップします。
- > 留め縫いの数をプログラムするには、「マイナス」または「プラス」をタップします。

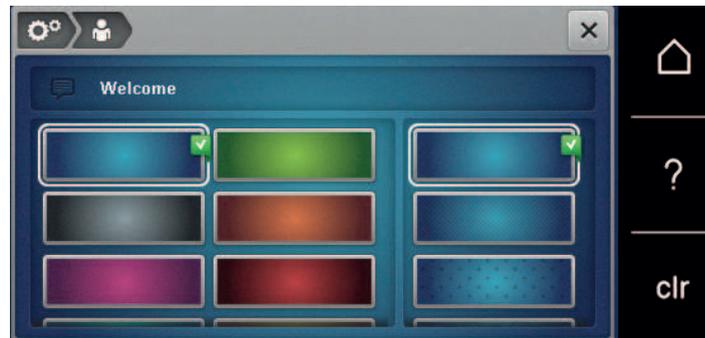


> 4つの留め縫い設定をプログラムするには、「一か所での留め縫い」をタップします。



- > バックキックによる自動糸切りを無効にするには、「自動糸切り装置」をタップします。
- > バックキックによる自動糸切りを有効にするには、「自動糸切り装置」を再度タップします。

3.2 パーソナル画面を設定する



> 「ホーム」をタップします。



> 「セットアッププログラム」をタップします。



- > 「個人設定」をタップします。
- > お好みのディスプレイの色および背景を選択します。
- > カラー設定の上にあるテキストボックスをタップします。
- > ウェルカムテキストを入力して確認します。

3.3 操作音の設定をする



-  > «ホーム»をタップします。
-  > «セットアッププログラム»をタップします。
-  > «操作音の設定»をタップします。
> 全般的な音設定のオン／オフを切り替えるには、スイッチ（1）をタップします。
-  > ステッチパターン選択時の音をオフにするには、フィールド（2）«音設定／解除»をタップします。
> ステッチパターン選択時の音をオンにするには、フィールド（2）«1～4»をタップします。
-  > 機能選択時の音をオフにするには、フィールド（3）«音設定／解除»をタップします。
> 機能選択時の音を設定するには、フィールド（3）«1～4»をタップします。
-  > BSRモード時に音をオフにするには、フィールド（4）«音設定／解除»をタップします。

3.4 ミシンの設定

ミシンの設定

-  > «ホーム»をタップします。
-  > «セットアッププログラム»をタップします。
-  > «ミシンの設定»をタップします。
-  > «言語の選択»をタップします。
> 希望の言語をタップします。

画面の明るさの設定

画面の明るさは必要に応じて設定できます。

-  > «ホーム»をタップします。
-  > «セットアッププログラム»をタップします。
-  > «ミシンの設定»をタップします。
-  > «画面の設定»をタップします。
> 画面の明るさを設定します。

セットアッププログラム

総ステッチ数を確認する

ミシンの総ステッチ数と、ベルニナ販売店が最後に行った点検以降のステッチ数が表示されます。



> «ホーム»をタップします。



> «セットアッププログラム»をタップします。



> «ミシンの設定»をタップします。



> «情報»をタップします。



> «ファームウェアとハードウェアの情報»をタップします。

販売店情報を入力

お客様がご利用のベルニナ販売店情報を登録することができます。



> «ホーム»をタップします。



> «セットアッププログラム»をタップします。



> «ミシンの設定»をタップします。



> «情報»をタップします。



> ベルニナ販売店データを入力するには、「販売代理店データ»をタップします。



> ベルニナ販売店の名前を登録するには、「名称»をタップします。



> ベルニナ販売店の住所を登録するには、「住所»をタップします。



> ベルニナ販売店の電話番号を登録するには、「電話番号»をタップします。



> ベルニナ販売店のウェブサイトまたはEメールアドレスを登録するには、「Eメールアドレス»をタップします。

サービスデータを保存する

ミシンの最新の状態に関するサービスデータは、ベルニナUSBメモリーに保存して、ベルニナ販売店に届けることができます。

> 十分な空き容量のあるベルニナUSBメモリーをミシンのUSBポートに差し込みます。



> «ホーム»をタップします。



> «セットアッププログラム»をタップします。



> «ミシンの設定»をタップします。



> «情報»をタップします。



- > «サービスデータ»をタップします。
- > «サービスデータをエクスポートする»をタップします。
 - «サービスデータをエクスポートする»フィールドに白い枠が表示されます。
- > 白い枠が表示されなくなったら、USBメモリーを取り外します。

標準設定に戻す

注意：この機能は、個別に作成した設定をすべて削除します。



- > «ホーム»をタップします。



- > «セットアッププログラム»をタップします。



- > «ミシンの設定»をタップします。



- > «工場出荷時設定»をタップします。



- > ソーイング設定の基本設定を復元するには、「ソーイングの基本設定»をタップして確認します。



- > 基本設定をすべて復元するには、「ミシンの基本設定»をタップして確認し、ミシンを再起動します。

ユーザーデータを消去する

必要のなくなったモチーフを消去することで、新しいモチーフを保存するデータ容量が増えます。



- > «ホーム»をタップします。



- > «セットアッププログラム»をタップします。



- > «ミシンの設定»をタップします。



- > «工場出荷時設定»をタップします。



- > 自分のメモリーからすべてのデータを消去するには、「自分のメモリーからデータを消去する»をタップして確認します。

布ガイド付き自動ボタンホール押え #3Aのキャリブレーション

布ガイド付き自動ボタンホール押え #3Aとミシンは互いに連動するため、常に一緒に使用する必要があります。

前提条件：

- ・ 布ガイド付き自動ボタンホール押え #3Aを取り付けます。
- ・ 針には糸を通さないでおきます。



- > «ホーム»をタップします。



- > «セットアッププログラム»をタップします。



- > «ミシンの設定»をタップします。



- > «メンテナンス/アップデート»をタップします。



- > «布ガイド付き自動ボタンホール押え #3Aのキャリブレーション»をタップします。
- > 布ガイド付き自動ボタンホール押え #3Aを下げます。



- > 校正を開始するには、「スタート/ストップ»ボタンを押します。
 - 校正が完了すると、結果が画面に表示されます。

4 システム設定

4.1 チュートリアルを開く

チュートリアルは、裁縫のさまざまな分野と各種技術に関する情報と説明を提供します。



> «ホーム»をタップします。



> «チュートリアル»をタップします。
> 情報を表示するには、目的のトピックを選択します。

4.2 ソーイングアドバイザーを開く

ソーイングアドバイザーでは、作品製作のお手伝いをします。布地と縫いたいものを入力すると、適した針とそれに合う押え金などの提案が表示されます。



> «ホーム»をタップします。



> «ソーイングアドバイザー»をタップします。
> 使用する布地を選択します。
> 作りたい作品を選択します。



> «決定»をタップします。
- 設定が調整されます。

4.3 エコモードについて

作業を長時間中断する場合、ミシンを省エネモードに切り替えることができます。省電力モードエコは、子供の安全機能としても機能します。このモードでは、ディスプレイで何も選択できず、ミシンを起動できません。



> «ホーム»をタップします。



> 省電力モードを有効にするには、「エコモード»をタップします。
- ディスプレイがスリープ状態になります。消費電力が少なくなり、ソーイングライトもオフになります。
> 省電力モードをオフにするには、ディスプレイの中央の«エコモード»シンボルをタップします。

4.4 ヘルプを開く

> ヘルプが必要な場合には、ディスプレイにヘルプを表示させます。
> ヘルプモードを起動するには、「ヘルプ» をタップします。
> ディスプレイに表示されている、サポートが必要な項目をタップします。



4.5 «clr»で変更を取り消す

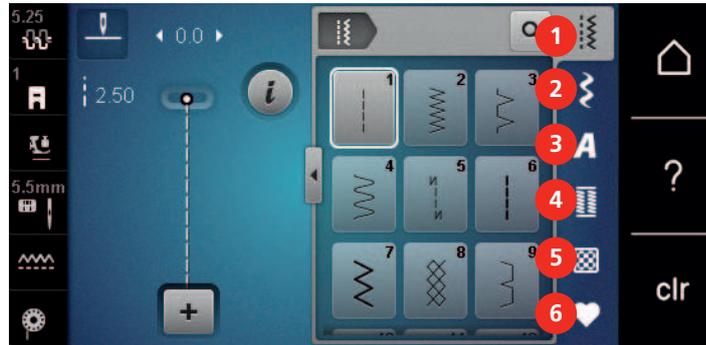
変更したパターンはすべてデフォルト設定に戻すことができます。自分のメモリーに保存されているパターンやモニター機能は対象外です。



> «設定をクリア»をタップします。

5 クリエイティブなソーイング

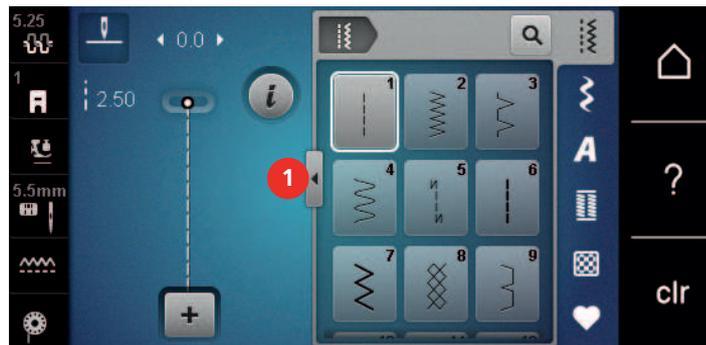
5.1 ソーイング選択メニューについて



- | | | | |
|---|-----------|---|--------------|
| 1 | 《実用縫い》 | 4 | 《ボタンホール》 |
| 2 | 《飾りステッチ》 | 5 | 《キルトステッチ》 |
| 3 | 《アルファベット》 | 6 | 《パーソナルプログラム》 |

ステッチパターンを選択する

- > ステッチパターン、アルファベットまたはボタンホールを選択します。
- > ステッチパターンをさらに表示するには、実用縫いのフィールドでアルファベットまたはボタンホールを上にはワイプします。
- > ズームインするには、《ウィンドウの拡大／縮小》(1) をタップします。



- > ズームアウトするには、《ウィンドウの拡大／縮小》をもう一度タップします。
- > ステッチ番号を入力してステッチパターンを選ぶには、《ステッチパターンを番号で選択》をタップします。



5.2 ソーイングスピードを調節する

スピードコントローラーで、ソーイングスピードを自由に調節することができます。

- > スピードコントローラーを左にスライドさせると、スピードが遅くなります。
- > スピードコントローラーを右にスライドさせると、スピードが速くなります。

5.3 上糸調子の設定

上糸調子の標準設定はステッチパターンによって自動的に設定されています。

上糸調子はベルニナの製造所で最適な状態に設定されています。上糸および下糸調子の初期設定に使われた糸は、メトロシーン／セラロン100/2（メトラー社）です。

その他のミシン糸を使用する場合には、上糸調子に不具合が生じてしまうことがあります。この場合には、布地およびステッチパターンに合わせて、上糸調子を調整してください。

上糸調子を強めるほど上糸が張って、下糸を布地に強く引き付けます。上糸を弱めると、上糸の張りが弱くなり、下糸を布に引き付ける力が弱まります。

上糸調子の変更は、それぞれ選択したステッチパターンに有効です。セットアッププログラムから上糸調子をソーイングモードで常に有効にすることができます。（参照ページ: 42）

前提条件：

- ・ 上糸調子をセットアッププログラムで変更します。



- > 「上糸調子」をタップします。
- > 上糸調子を調節します。

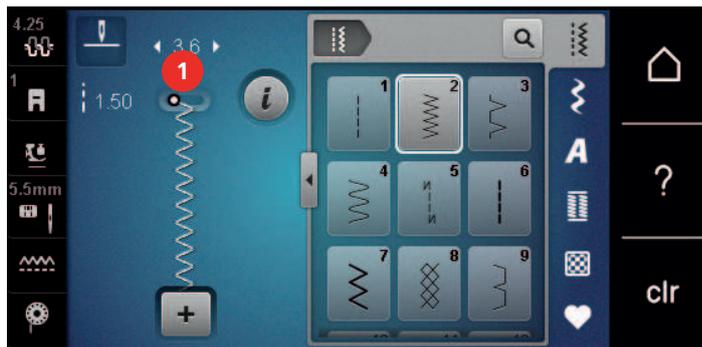


- > 変更を基本設定に戻すには、右側の黄色い枠のフィールドをタップします。
- > 「セットアッププログラム」で変更を基本設定に戻すには、左側の黄色い枠のフィールドをタップします。

5.4 ステッチパターンの編集

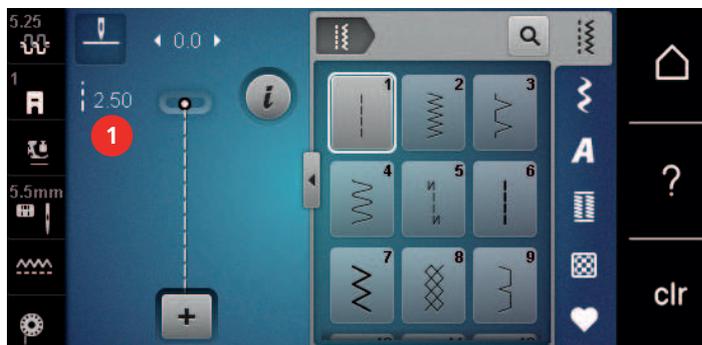
振り幅を変更する

- > 「多機能ボタン 上」を左に回すと、振り幅が小さくなります。
- > 「多機能ボタン 上」を右に回すと、振り幅が大きくなります。
- > さらに設定項目を呼び出すには、「ステッチ幅」(1) をタップします。



送り長さを変更する

- > 「多機能ボタン 下」を左に回すと、送り長さが短くなります。
- > 「多機能ボタン 下」を右に回すと、送り長さが長くなります。
- > さらに設定項目を呼び出すには、「ステッチ長」(1) をタップします。



バランスを調整する

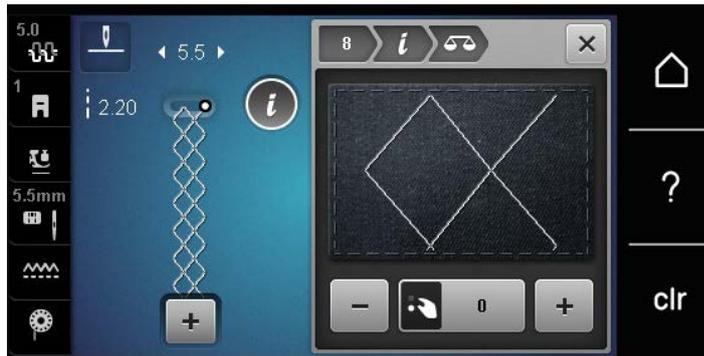
布地や糸、芯地の種類によっては、バランスの調整が必要な場合があります。バランスを調整することで、布地に合ったきれいなステッチパターンを縫うことができます。

- > ステッチパターンまたはアルファベットを選択します。
- > ステッチパターンを縫います。
- > 「iダイアログ」をタップします。





- > «バランス»をタップします。
 - ステッチパターンのプレビューが表示されます。



- > «多機能ボタン 下»を回して、ステッチパターンの縦方向のバランスを調整し、プレビューで確認します。



- > 変更したバランス設定は、「パーソナルプログラム」内の各ステッチごとに保存可能です。
- > 変更したバランス設定は、「設定をクリア」を押す、またはミシンの電源を切るまでの間だけ有効です。

模様繰り返し機能を設定する

ステッチパターンは9回まで繰り返すことができます。

- > ステッチパターンまたはアルファベットを選択します。
- > «iダイアログ»をタップします。



- > ステッチパターンを1回縫うには、「パターンの反復」を1回タップします。
- > ステッチパターンを9回まで繰り返すには、「パターンの反復」を2~9回タップします。
- > ステッチパターンの繰り返しをオフにするには、「パターンの反復」を長押しします。

ステッチパターンを反転させる

- > ステッチパターンまたはアルファベットを選択します。
- > «iダイアログ»をタップします。



- > ステッチパターンを左から右にミラーリングするには、「模様反転 左/右」をタップします。



- > ステッチパターンを縫製方向にミラーリングするには、「模様反転 上/下」をタップします。

返し縫い

- > ステッチパターンまたはアルファベットを選択します。
- > «返し縫い» ボタンを押してすぐに返し縫いに切り替える場合は、針停止位置を下に設定します（常時）。
- > 返し縫いに切り替える前にもう1針正縫いするには、針位置を上を設定します（常時）。
- > «返し縫い» ボタンを押す、そのまま押し続けます。



続けて返し縫いをする

- > ステッチパターンまたはアルファベットを選択します。
- > «iダイアログ»をタップします。



- > 連続返し縫いをするには、「連続返し縫い機能」をタップします。
 - «連続返し縫い機能»をもう一度押すまで、ミシンは返し縫いを実行します。

5.5 ステッチパターンのコンビネーション

コンビネーションモードについて



- | | | | |
|---|---------|---|------------------------|
| 1 | 《ステッチ幅》 | 3 | 《コンビネーションモード／シングルモード》 |
| 2 | 《ステッチ長》 | 4 | コンビネーションの中の個々のステッチパターン |

ステッチパターンのコンビネーションを作成する

コンビネーションモードでは、ステッチパターンとアルファベットを希望に合わせて組み合わせることができます。例えば、任意のアルファベットを組み合わせ、**「BERNINA」**という文字を作ることができます。

-  > 《コンビネーションモード／シングルモード》をタップします。
- > 使いたいステッチパターンを選択します。



-  > シングルモードに戻すには、《コンビネーションモード／シングルモード》をもう一度タップします。

ステッチパターンのコンビネーションを保存する

個別に作成したステッチパターンのコンビネーションを再利用するために、《パーソナルプログラム》ストレージに保存することができます。

前提条件：

- ・ ステッチパターンのコンビネーションが作成されます。

-  > 《パーソナルプログラム》をタップします。

-  > 《ステッチパターンを保存する》をタップします。

-  > 《決定》をタップすると、ステッチパターンのコンビネーションが保存されます。

ステッチパターンのコンビネーションを呼び出す

-  > 《コンビネーションモード／シングルモード》をタップします。



> «パーソナルプログラム»をタップします。



> «ステッチパターンのコンビネーションを読み込む»をタップします。
> ステッチパターンのコンビネーションを選択します。

ステッチパターンのコンビネーションを上書きする

前提条件：

・ ステッチパターンのコンビネーションが作成されます。



> «パーソナルプログラム»をタップします。



> «ステッチパターンを保存する»をタップします。
> 上書きするステッチパターンのコンビネーションを選択します。



> «決定» をタップすると、ステッチパターンのコンビネーションが上書きされます。

ステッチパターンのコンビネーションを消去する

前提条件：

・ ステッチパターンのコンビネーションが作成されます。



> «iダイアログ»をタップします。



> «全体の組み合わせを編集する»をタップします。



> «消去»をタップします。



> «決定»をタップします。

単独のステッチパターンを編集する

前提条件：

・ ステッチパターンのコンビネーションが作成されます。

> 一つのステッチパターンを選択するには、ステッチパターンのコンビネーションの中で希望の位置(1)をタップします。



> «iダイアログ» をタップして、個々のステッチパターンを編集します。

ステッチパターンの一部を消去する

前提条件：

・ ステッチパターンのコンビネーションが作成されます。

クリエイティブなソーイング

> ステッチパターンのコンビネーションの中の希望のステッチパターン (1) をタップします。



> «iダイアログ»をタップします。



> «消去»をタップします。

単独のステッチパターンを追加する

新しいステッチパターンは、常に選択されたステッチパターンの下に挿入されます。

前提条件：

- ・ ステッチパターンのコンビネーションが作成されます。
- > 一つのステッチパターンを選択するには、ステッチパターンのコンビネーションの中で希望の位置 (1) をタップします。



> 新しいステッチパターンを選択します。

ステッチパターンのコンビネーションを反転させる

前提条件：

- ・ ステッチパターンのコンビネーションが作成されます。



> «iダイアログ»をタップします。



> «全体の組み合わせを編集する»をタップします。



> ステッチパターン全体を左から右にミラーリングするには、「模様反転 左/右」をタップします。

> 変更した内容を初期設定に戻す場合は、「模様反転 左/右」をもう一度タップします。

ステッチパターンのコンビネーションを留め縫いする

前提条件：

- ・ ステッチパターンのコンビネーションが作成されます。
- > ステッチパターンのコンビネーションの中で、縫いたい位置を選択します。



> «iダイアログ»をタップします。



> «カーソル位置でコンビネーションを編集する»をタップします。



> «留め縫い»をタップします。

– ステッチパターンのコンビネーションの各パターンは、最初に縫うことも、最後に縫うこともできます。

模様繰り返し機能を設定する

前提条件：

・ ステッチパターンのコンビネーションが作成されます。



> «iダイアログ»をタップします。



> «全体の組み合わせを編集する»をタップします。



> ステッチパターンのコンビネーションを繰り返し実行する場合は、「パターンの反復」を1回タップします。

> ステッチパターンのコンビネーションを9回まで繰り返し実行する場合は、「パターンの反復」をもう一度タップします。

> パターンの繰り返しをオフにする場合は、「パターンの反復」を長押しするか、「設定をクリア」をタップします。

5.6 ステッチパターンを編集する

ステッチパターン設定を保存する



> ステッチパターン、アルファベットまたはボタンホールを選択します。

> «iダイアログ»をタップします。

> ステッチ、アルファベット、またはボタンホールを変更します。



> すべての変更を永続的に保存するには「ステッチパターン設定を保存する」をタップします。



> すべての変更を破棄するには、「ステッチパターンをもとに戻す」をタップします。

ステッチパターンをユーザーメモリーに保存する

«パーソナルプログラム» ストレージに、個別に変更したステッチパターンも含め、あらゆるステッチパターンを保存することができます。

> ステッチパターン、アルファベットまたはボタンホールを選択します。

> ステッチパターンを編集します。



> «パーソナルプログラム»をタップします。



> «ステッチパターンを保存する»をタップします。

> パターンを保存するフォルダを選択します。



> «決定»をタップします。

ユーザーメモリー内のステッチパターンを上書きする

前提条件：

・ ステッチパターンがユーザーメモリーに保存されます。

> ステッチパターン、アルファベットまたはボタンホールを選択します。

> ステッチパターンを編集します。



> «パーソナルプログラム»をタップします。

クリエイティブなソーイング



- > «ステッチパターンを保存する»をタップします。
- > 上書きするステッチパターンが保存されているフォルダを選択します。
- > 上書きするステッチパターンを選択します。



- > «決定»をタップします。

ユーザーメモリー内にあるステッチパターンを呼び出す

前提条件：

- ・ ステッチパターンがユーザーメモリーに保存されます。



- > «パーソナルプログラム»をタップします。



- > «ステッチパターンを読み込む»をタップします。
- > ステッチパターンが保存されているファイルを選択します。
- > ステッチパターンを選択します。

ユーザーメモリー内にあるステッチパターンを消去する

前提条件：

- ・ ステッチパターンがユーザーメモリーに保存されます。



- > «パーソナルプログラム»をタップします。



- > «消去»をタップします。
- > ステッチパターンが保存されているファイルを選択します。
- > ステッチパターンを選択します。



- > ステッチパターンを消去するには、「決定»をタップします。

ステッチパターンをベルニナUSBメモリーに保存する

ベルニナUSBメモリーにお気に入りのステッチパターンや、編集したステッチパターンを保存することができます。

- > ステッチパターンまたはアルファベットを選択します。
- > ステッチパターンを編集します。
- > «パーソナルプログラム»をタップします。



- > «ステッチパターンを保存する»をタップします。
- > ベルニナUSBメモリーをマシンのUSB端子に差し込みます。



- > «USBメモリー»をタップします。



- > «決定»をタップします。

ベルニナUSBメモリーからステッチパターンを呼び出す

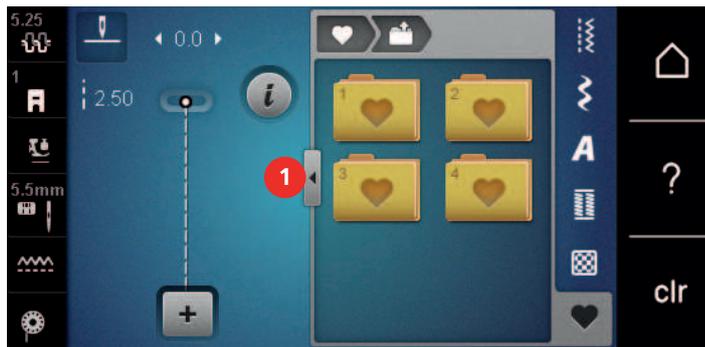


- > «パーソナルプログラム»をタップします。



- > «ステッチパターンを読み込む»をタップします。

> «ウィンドウの拡大／縮小» (1) をタップします。



- > ベルニナUSBメモリーをミシンのUSB端子に差し込みます。
- > «USBメモリー»をタップします。
- > 呼び出したいステッチパターンを選択します。



ベルニナUSBメモリーからステッチパターンを消去する



> «パーソナルプログラム»をタップします。



- > «消去»をタップします。
- > ベルニナUSBメモリーをミシンのUSB端子に差し込みます。
- > 消去するステッチパターンを選択します。



> «決定»をタップします。

5.7 留め縫い

«留め縫い»ボタンを押して留め縫いをする

«留め縫い»ボタンにはさまざまな留め縫いをプログラムすることができます。(参照ページ: 43)

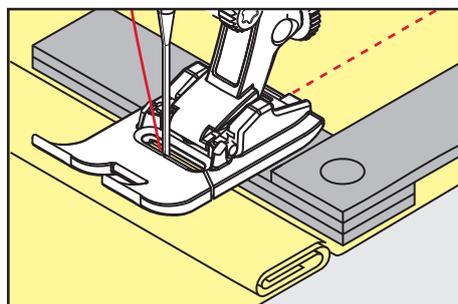


- > 縫い始める前に«留め縫い»ボタンを押します。
 - ステッチパターン／ステッチパターンのコンビネーションを設定した針数留め縫いします。
- > «留め縫い»ボタンをソーイング中に押します。
 - ミシンは停止して、その場でプログラムされた針数の留め縫いをします。

5.8 布地の高さを調節する

厚みのある部分を縫う際に押え金が斜めになっていると、送り歯がうまく布地を送ることができず、縫い目にばらつきができてしまいます。

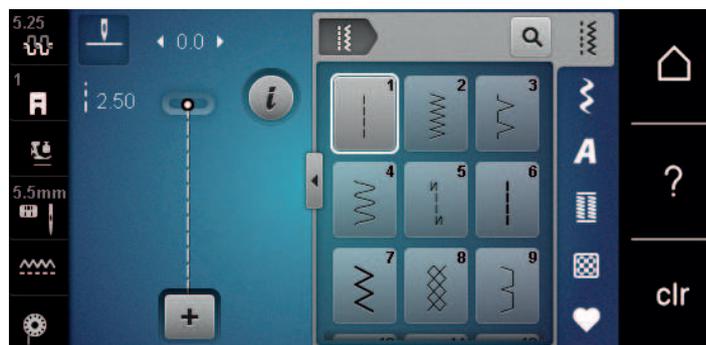
> 1-3枚ほどの高さ調節板を、後ろから押え金の下の、針の少し手前の位置に入れます。



- 押え金が布地に対して水平になります。

6 実用縫い

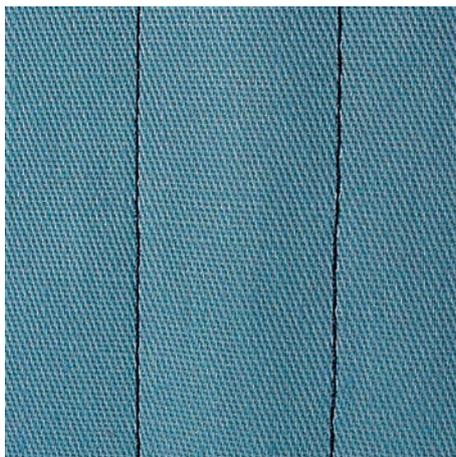
6.1 実用縫い一覧



ステッチパターン	ステッチ番号	名称	特徴・用途
	1	直線縫い	縫い目を接合したり、トップステッチや仮縫いに。
	2	ジグザグ	仕上げ、ニットの縫い目の縫製、レースインサートやゴムバンドの縫製に。
	3	バリオーバーロック	端部分をきれいに整えるため、伸縮性のある生地を縫い合わせ、同時に切り整える際に。
	4	ランニングステッチ	布端の繕いや補強、レースやゴムテープの縫い付けに。
	5	留め縫いプログラム	順縫いと逆縫いで縫い始めを自動的に留め縫いします。
	6	トリプル直線縫い	厚手の生地や、装飾効果のある生地の縫い目を補強する際に。
	7	トリプルジグザグ	丈夫な生地の耐久性のある縫い目、目立つ裾、装飾的な縫い目に。
	8	ネットステッチ	伸縮性のある布地や裾に、またゴム糸が使用される場合に。
	9	まつり縫い	ほとんどの生地タイプのまつり縫い押え、およびソフトジャージーや上質な生地のシェルエッジに。
	10	ダブルオーバーロック	伸縮性のある布地の縫い合わせと同時に、布端の補強処理を行う際に。
	11	スーパーストレッチステッチ	非常に伸縮性のあるオープンシームに。
	12	ギャザーステッチ	伸縮性のある糸でひだを作るため、また、中厚手の生地の縫い目をフラットに継ぎ合わせる際に。
	13	ストレッチオーバーロック	伸縮性のある布地の縫い合わせと同時に、布端の補強処理を行ったり、フラットに縫い目を継ぎ合わせる際に。

ステッチパターン	ステッチ番号	名称	特徴・用途
	14	トリコットステッチ	ランジェリーやセーターなどの目立つ裾や縫い目、トリコット生地 <small>の補修に。</small>
	15	ユニバーサルステッチ	フェルトや皮革などの厚手の生地 <small>のフラットな接ぎ合わせ、目立つ裾や装飾的な縫い目、エラスティックテープの縫い付けに。</small>
	16	ジグザグステッチ	布端の仕上げや補強、エラスティックテープ <small>の縫い付け、装飾的な縫い目（飾り縫い目）などに。</small>
	17	ライクラステッチ	フラット継ぎ合わせの縫い目、ライクラ生地上 <small>の見える部分の縫い目、コルセット縫い直しの縫い目の際に。</small>
	18	ストレッチステッチ	織物やニット <small>の伸縮性のある縫い目や裾に。</small>
	19	補強オーバーロック	中厚手のニットやテリー織りのオーバーロック縫い <small>やフラット継ぎ合わせ縫い目の際に。</small>
	20	ニットオーバーロック	織物やニット <small>の伸縮性のある縫い目や裾の裁縫やきれいに整える際に。</small>
	22	シンプルダーニングプログラム	薄い生地から厚い生地まで自動で繕う。
	23	補強ダーニングプログラム	厚手の生地 <small>の自動ダーニングに。</small>
	24	バータックプログラム	ポケットの開口部の補強や、ボタンホール <small>鉾、ベルトループの縫い付けの際に。</small>
	25	バータックプログラム	ポケットの開口部の補強や、ベルトループ <small>の縫い付け、縫い目端部分の固定の際に。</small>
	26	大型フライステッチ	中～厚手の生地 <small>でポケットの開口部、ジッパー、スリット部分を補強する際に。</small>
	29	ふり幅の小さいまつり縫い	軽く、薄織りで柔らかい生地 <small>のブラインドヘムとシェルシーム用に。</small>
	30	手作業によるしつけ縫い	非常に長いステッチ長さ <small>が必要な作業に。</small>
	32	一針直線縫い	本の直線縫いを組み合わせたつなぎステッチ <small>として。</small>
	33	三針直線縫い	3つの個別の直線縫いを組み合わせたつなぎステッチ <small>として。</small>

6.2 直線縫い



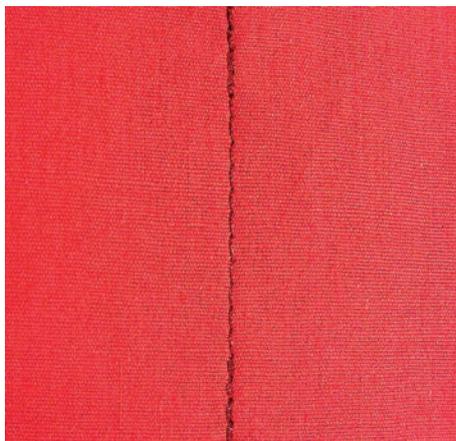
縫い目の長さは、デニム地の場合は長めのステッチ（約3～4mm）、薄手の生地の場合は短めのステッチ（約2～2.5mm）など、縫い物に合わせて調整してください。例えば、コードネットの長針（約3～5mm）でトップステッチをする場合など、糸の太さに合わせて縫い目の長さを調整します。

前提条件：

- ・ 標準押え #1 を取り付けます。
- > «実用縫い»をタップします。
- > 直線縫い No. 1 を選択します。



6.3 自動留め縫いプログラムで留め縫いをする



縫い終わりと縫い始めに6針ずつ前進と後進をして、留め縫いをします。

前提条件：

- ・ 標準押え #1 を取り付けます。
- > «実用縫い»をタップします。
- > 留め縫いプログラム No. 5 を選択します。
- > フットコントローラーを踏み込みます。
 - ミシンが自動的に留め縫いをします。
- > 必要な長さを縫います。
- U > «返し縫い» ボタンを押します。
 - ミシンが自動的に留め縫いをして、停止します。



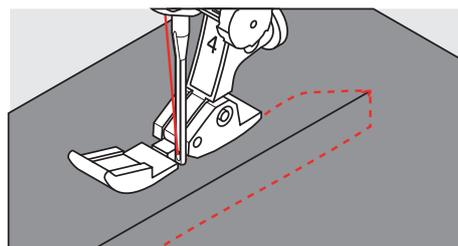
6.4 ファスナーを縫い付ける



縫い始めの布送りが難しい場合、縫い始めに糸をしっかり押える、布地を何針か縫うまで軽く後ろに引っ張る、または最初に1-2 cm後進で縫うなどをお勧めします。



- > 標準押え #1 を取り付けます。
- > «実用縫い»をタップします。
- > 直線縫い No. 1 を選択します。
- > ファスナーを縫い付ける部分まで縫います。
- > 留め縫いをします。
- > ファスナーを縫い付ける部分を長いステッチでしつけ縫いします。
- > 縫い代を仕上げます。
- > 縫い目にアイロンをかけます。
- > ファスナーを縫い付ける部分を開きます。
- > ファスナーをしつけ縫いします。布地の下にまち針などで、布地の端同士がファスナーの中央で合うようにしつけます。
- > ファスナーを数センチ開きます。
- > ファスナー押え #4 を取り付けます。
- > 針基線を右にします。
- > 押え金を上げて縫い物の位置を決めるには、ニーレバーを使います。
- > 左上から縫い始めます。
- > 針がファスナーの歯に沿って刺さるように、押え金の位置を調節します。
- > ファスナーのスライダーの手前まで縫ったところで、針位置を下にしてミシンを止めます。
- > 押え金を上げます。
- > ファスナーを閉じます。
- > 続けて縫い、スリットが終わる手前で針位置を下にしてミシンを止めます。
- > 押え金を上げて作品の向きを変えます。
- > ファスナーの反対側まで縫い、針位置を下にしてのミシンを止めます。
- > 押え金を上げて作品の向きを変えます。
- > ファスナーの反対側を下から上に縫います。



6.5 ファスナーの両側を下から上に縫い付ける

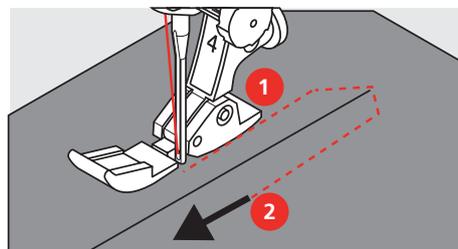
ベルベットなどの起毛生地の場合、ファスナーは両側とも毛並みと逆方向に縫い付けていくことをお勧めします。



目の詰まった布地や硬い布地を縫う際には、均等なステッチを縫うために90-100番の針を使用することをお勧めします。



- > 標準押え #1 を取り付けます。
- > «実用縫い»をタップします。
- > 直線縫い No. 1 を選択します。
- > ファスナーを縫い付ける部分まで縫います。
- > 留め縫いをします。
- > ファスナーを縫い付ける部分を長いステッチでしつけ縫いします。
- > 縫い代を仕上げます。
- > 縫い目にアイロンをかけます。
- > ファスナーを縫い付ける部分を開きます。
- > ファスナーをしつけ縫いします。布地の下にまち針などで、布地の端同士がファスナーの中央で合うようにしつけます。
- > ファスナー押え #4 を取り付けます。
- > 針基線を右にします。
- > 押え金を上げて縫い物の位置を決めるには、ニーレバーを使います。
- > ファスナーの端の縫い目の中央から縫い始めます。
- > 縫い目の中央からファスナーの務歯の外側まで斜めに縫います。
- > (1)の側を下から上に向かって縫います。
- > ファスナーのスライダーの手前まで縫ったところで、針位置を下にしてミシンを止めます。
- > 押え金を上げます。
- > ファスナーを押え金の後ろの位置まで開けます。
- > 押え金を下ろして再び縫います。
- > 針基線を左にします。
- > ファスナーの反対側(2)を同様に下から上に縫います。



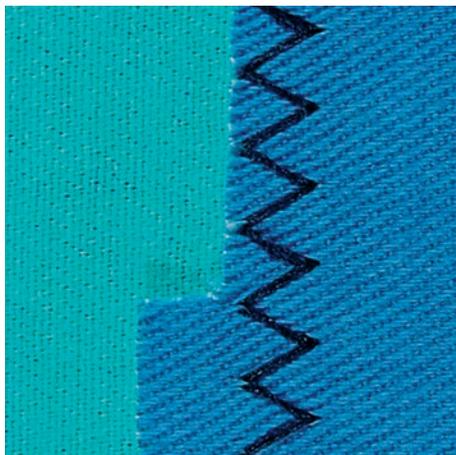
6.6 トリプル直線縫い



トリプル直線縫いは、特に硬い素材の縫製や、デニムやコーデュロイなどの硬くて密度の高い素材に適しています。硬い生地や非常に目の詰まった生地の場合は、ジーンズ押え #8 を装着することをお勧めします。デニム地や帆布などの硬い布地が縫いやすくなります。飾りステッチをする際には送り長さを長めにします。

- > 標準押え #1 を取り付けます。
- > «実用縫い»をタップします。
- > トリプル直線縫い No. 6 を選択します。

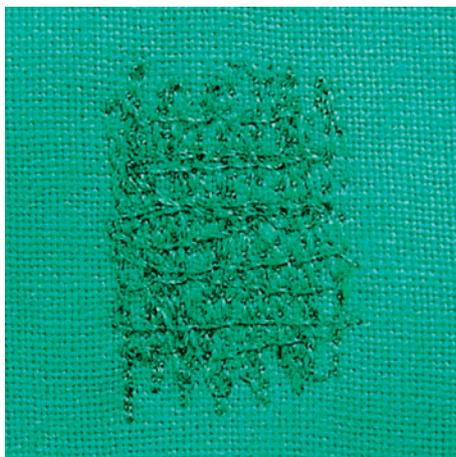
6.7 トリプルジグザグ縫い



硬い生地、特にデニム生地や、デッキチェア用キャンバス地や天幕に。頻繁に洗濯するアイテムの裾上げ。まず縫い目の端を仕上げます。

- > 標準押え #1を合わせます。
- > «実用縫い»をタップします。
- > トリプルジグザグ No. 7を選択します。

6.8 マニュアル式繕い縫い



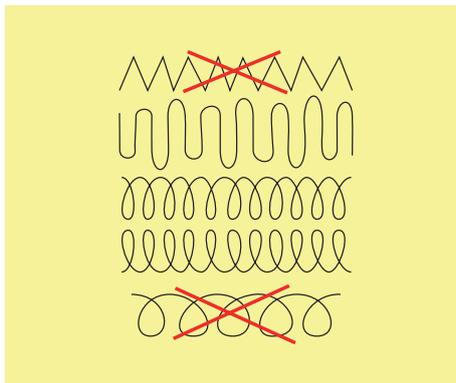
あらゆる種類の布地の穴や擦り切れた部分を繕うのに使用します。



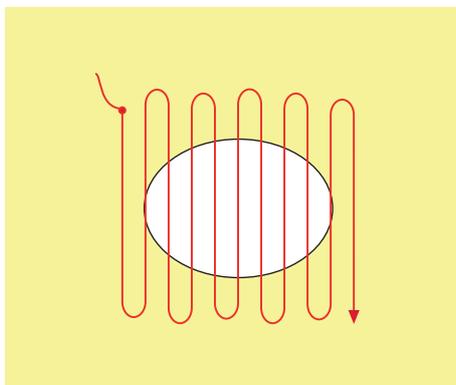
糸が上に浮いて縫い目がうまくできない場合は、縫製作業の速度を遅くしてください。生地裏側にループができる場合、縫製作業の速度を早くします。糸が切れた場合は、縫製作業をより着実に進めてください。

- > つくろい縫い押え #9を合わせます。
- > «実用縫い»をタップします。
- > 直線縫い No. 1を選択します。
- > 送り歯を下げます。
- > スライドオンフリーアーム拡張テーブルを取り付けます。
- > 縫製作品を丸い刺しゅう枠（オプションのアクセサリ）に取り付けます。
 - ダーニング部分は均一に伸びたままになり、変形しません。

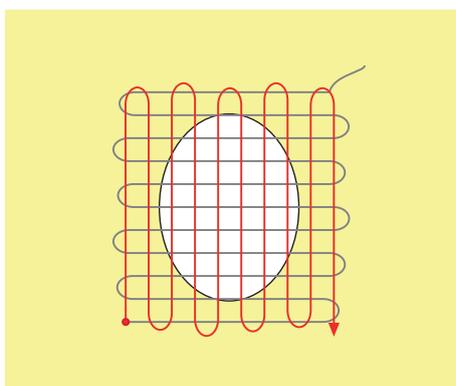
- > 左から右に縫います。生地は手で均等にガイドし、押え圧は0にしておきます。
- > 穴が空いたり、糸切れを防ぐために、方向を変えるときは曲線を描いて動かしてください。
- > 縫う長さをいろいろ変えて繕ってゆきます。糸が均等に布地の上で広がっているのが理想的です。



- > 最初の列は摩耗した周りを縫います。間隔が狭すぎないようにご注意ください。
- > 縫い目が均一に揃わないように縫います。

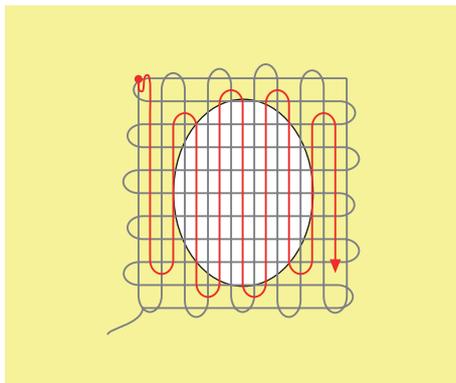


- > 縫製作品を90° 回転させます。
- > 最初の列は間隔が狭すぎないように縫います。

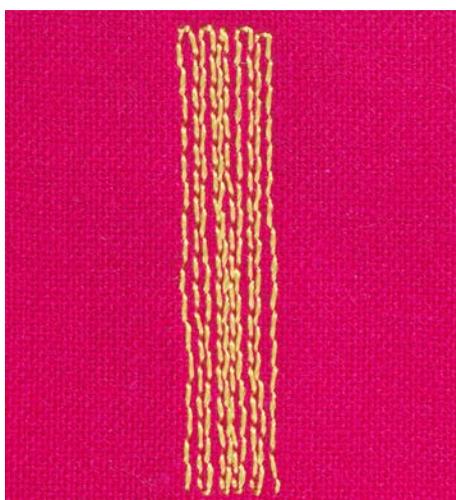


- > 縫製作品を180° 回転させます。

- > さらに続けてゆるくなっている列を縫います。



6.9 自動繕い縫い



シンプルダーニングプログラム No. 22 は、特に薄い斑点や裂け目を素早くかがる際に適しています。繕う部分に薄いあて布や接着芯などを使用することをお勧めします。シンプルダーニングプログラム No. 22 では、すべての布地の縦糸を交換します。布地がゆがんしまう場合には、バランスを調整します。

- > 標準押え #1 または 布ガイド付き自動ボタンホール押え #3A を取り付けます。



- > «実用縫い»をタップします。
- > シンプルダーニングプログラム No. 22 を選択します。
- > 薄手の布地を繕い縫い枠（オプションアクセサリ）にセットします。
 - 繕い縫いをする場所がよれたりずれたりするのを防ぎます。
- > 左上から縫い始めます。
- > 最初の一行を縦に縫います。
- > ミシンを止めます。
- U > «返し縫い»をタップします。
 - 長さがプログラムされています。
- > 繕い縫いがされます。
 - ミシンは自動的に停止します。

6.10 自動補強繕い縫い



強化かがりプログラム No. 23は、特に薄い斑点や裂け目を素早くかがる際に適しています。強化かがりプログラム No. 23では、すべての布地の縦糸を交換します。



繕い縫いプログラムで、破れた箇所全体をカバーできない場合には、布地の位置を変えて、もう一度繕い縫いプログラムを行います。プログラムにセットした長さで何回でも繰り返すことができます。

- > 布ガイド付き自動ボタンホール押え #3Aを取り付けます。
- > «実用縫い»をタップします。
- > 補強ダーニングプログラム No. 23を選択します。
- > 薄手の布地を繕い縫い枠（オプションアクセサリ）にセットします。
 - 繕い縫いをする場所がよれたりずれたりするのを防ぎます。
- > 左上から縫い始めます。
- > 最初の一行を縦に縫います。
- > ミシンを止めます。
- U > «返し縫い»ボタンを押します。
 - 停止長さがプログラムされています。
- > 繕い縫いがされます。
 - ミシンは自動的に停止します。

6.11 布端の処理をする



ジグザグ No. 2はすべての布地に適しています。また、伸縮性が必要なステッチや飾りステッチとしても使用できます。薄手の布地には繕い縫い用の糸を使用します。

サテンステッチには振り幅が0.3 - 0.7 mmの目の詰まった短いジグザグ縫いが向いています。サテンステッチはアップリケや刺しゅうに使うことができます。

前提条件：

- ・ 布端が丸まらないように平らにします。

- > 標準押え #1を取り付けます。
- > «実用縫い»をタップします。
- > ジグザグ No. 2またはサテンステッチ No. 1315を選択します。
- > 振り幅は広すぎないように、送り長さは長すぎないように設定します。
- > 布地の端が押え金の中央に来るようにセットして、針が生地の片側に刺さり、もう片方は空いているようにします。

6.12 ダブルオーバーロック

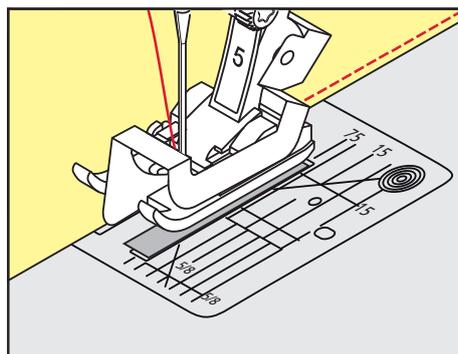


ダブルオーバーロックステッチは目の粗いニット地やジャージーに適しています。ニット地には、細かい編み目に穴を開けてしまわないよう、新しいジャージー針を使用することをお勧めします。伸縮性のある布地にはストレッチ針を使用します。

- > 標準押え #1またはオーバーロック縫い押え #2を取り付けます。
- > «実用縫い»をタップします。
- > ダブルオーバーロック No. 10を選択します。

6.13 布端のトップステッチ（小幅）

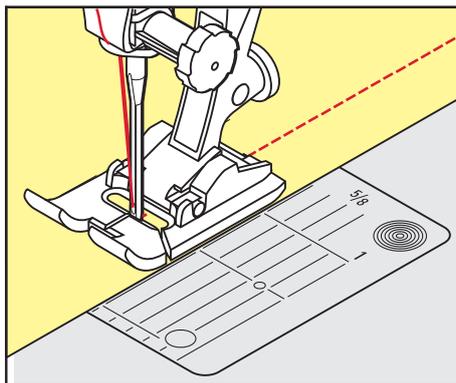
- > まつり縫い押え #5 または 端縫い押え #10 を取り付けます。
- > «実用縫い»をタップします。
- > 直線縫い No. 1 を選択します。
- > 布端をまつり縫い押えのガイドの左側に合わせます。
- > 針基線をトップステッチをしたい位置にあわせて設定します。



6.14 布端のトップステッチ（大幅）

- > 標準押え #1 を取り付けます。
- > «実用縫い»をタップします。
- > 直線縫い No. 1 を選択します。
- > 縁を押え金に沿って、またはマーキングに沿って1~2.5cmの位置に誘導します。

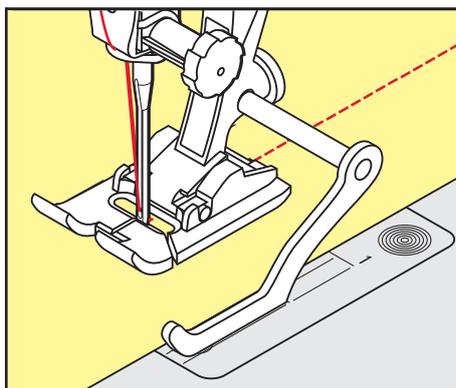
- > 針基線をトップステッチをしたい位置にあわせて設定します。



6.15 シームガイド（オプションアクセサリ）を使用したトップステッチ

すでに縫った縫い目に対して、平行で幅の広いトップステッチをする場合には、シームガイド（オプションアクセサリ）を使用することをお勧めします。

- > 標準押え #1を取り付けます。
- > «実用縫い»をタップします。
- > 直線縫い No. 1を選択します。
- > 押え金の後ろのネジを緩めます。
- > シームガイドを押えの穴に差し込みます。
- > 必要な幅に調節します。
- > ネジを締めます。
- > 布端をシームガイドに合わせます。

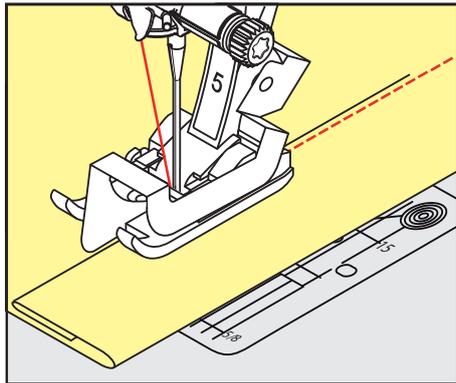


6.16 裾を縫う

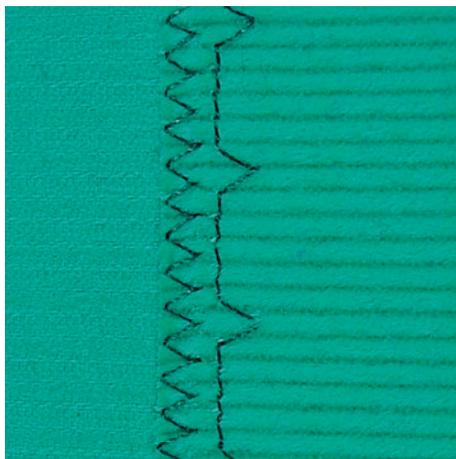
まつり縫い押え #5を使用する際は、針の位置を左いっぱい、または右いっぱいに設定することをお勧めします。標準押え #1や端縫い押え #10では、すべての針位置が可能です。

- > まつり縫い押え #5または標準押え #1または端縫い押え #10を取り付けます。
- > «実用縫い»をタップします。
- > 直線縫い No. 1を選択します。
- > 内側の折り目をまつり縫い押えのガイドの右側に合わせます。

> 針基線を一番右にし、内側の折り目に沿って縫います。



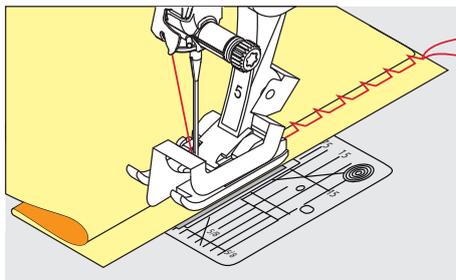
6.17 まつり縫い



綿、毛および混紡の中厚地～厚地の目立たない縁縫いに。

前提条件：

- ・ 布端の処理をします。
- > まつり縫い押え #5を取り付けます。
- > «実用縫い»をタップします。
- > まつり縫い No. 9を選択します。
- > 処理した布端が右側に来るように布地を折ります。
- > 布地を押え金の下に入れ、折り山が押え金のガイドの左側に沿うようにセットします。
- > 均等な位置にかがり縫いをするには、折り目の端を押え金のガイドに沿って縫います。
 - 針が折り目の端のぎりぎりの位置に刺さるように注意します。
- > 10 cm (3.93 inch)ほど縫ったら、布地の表裏をチェックして、必要に応じて再度振り幅を調節します。



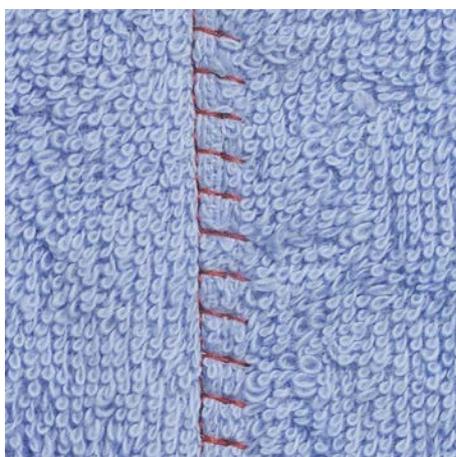
6.18 飾りヘムステッチ



飾りヘムステッチはジャージー、綿、毛、化学繊維および混紡の伸縮性のある布地の裾に向いています。

- > 標準押え #1 を取り付けます。
- > «実用縫い»をタップします。
- > トリコットステッチ No. 14 を選択します。
- > 裾にアイロンをかけ、必要であればしつけをします。
- > 押え圧を必要に応じて弱くします。
- > 縫いたい位置に合わせて表側を縫います。
- > 裏側のはみ出た布地を切り落とします。

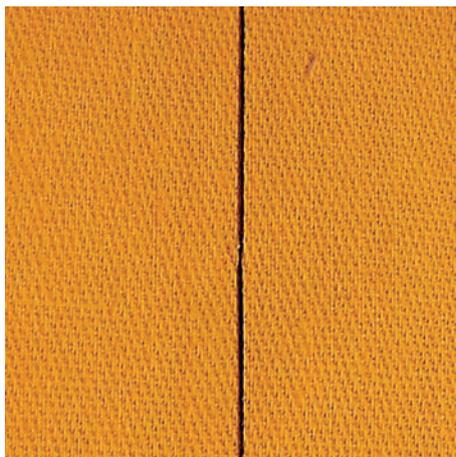
6.19 フラット縫い



フラット縫いはふわふわしたまたは厚いタオル地やフェルト、皮革などに適しています。

- > 標準押え #1 を取り付けます。
- > «実用縫い»をタップします。
- > ストレッチオーバーロック No. 13 を選択します。
- > 布端を重ねます。
- > 布端に沿って縫います。
- > 非常に平らで安定した縫い目になるように、針が布地の上端から下の布地に向かって正しく突き刺さるようにします。

6.20 しつけ縫い



しつけ縫いには、取り除くときに楽な細い繕い縫い用の糸を使用することをお勧めします。しつけ縫いステッチ No. 21では4回送る毎に1針が縫われます。しつけ縫いステッチは、一目が長いステッチが必要な場合に使用します。

- > つくろい縫い押え #9（オプション）を取り付けます。
- > 送り歯を下げます。
- > «実用縫い»をタップします。
- > 手作業によるしつけ縫い No. 30 を選択します。
- > 布の層がずれないように、布の層をしつけ縫いの方向に沿ってピンで留めて固定します。
- > 糸を押さえて、はじめに3-4針の留め縫いをします。
- > 一針縫って、必要なステッチの長さだけ、布地を後ろ側に引っ張ります。
- > 一針縫います。
- > 縫い終わりに3-4針の留め縫いをします。

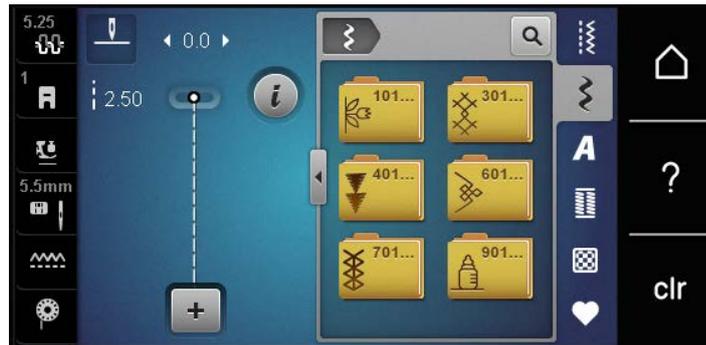
7 飾りステッチ

7.1 飾りステッチについて

布地の種類に応じて、より簡単な装飾ステッチやより難しい装飾ステッチが適しています。

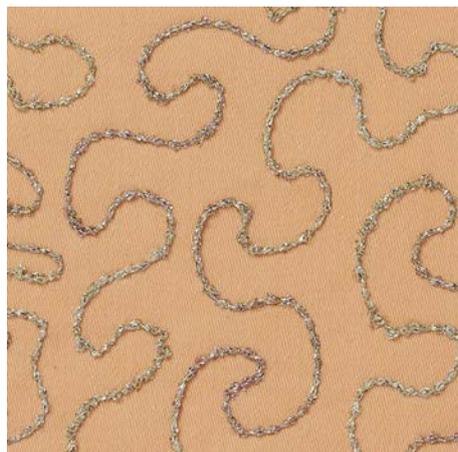
- ・ シンプルな直線縫いでプログラムされた装飾ステッチは、装飾ステッチ No. 101などの特に軽量生地に適しています。
- ・ トリプル直線縫いまたはいくつかのサテンステッチでプログラムされた装飾ステッチは、装飾ステッチ No. 107中厚の生地に特に適しています。
- ・ サテンステッチでプログラムされた装飾ステッチは、装飾ステッチ No. 401などの厚手の生地に特に適しています。

完璧なステッチを作成するためには、上糸と下糸に同じ色の糸、および安定紙を使用することをお勧めします。パイル素材や長繊維素材の場合は、縫製後に簡単に取り除くことができる水溶性安定紙を生地の表側にさらに使用することをお勧めします。



装飾ステッチ	種類	名前
	100	ネイチャーステッチ
	300	クロスステッチ
	400	サテンステッチ
	600	幾何学模様ステッチ
	700	ヘアルームステッチ
	900	子供向けステッチ

7.2 ボビンワーク



飾りステッチ

ボピンにはさまざまな糸素材を詰めることができます。フリーモーションステッチによる質感の追加に。この方法は「通常の」フリーモーション縫製に似ていますが、布地の裏側で行われます。

縫う部分を刺しゅう安定紙で補強します。デザインは布の裏側に描くことができます。また、布の表側にもデザインを描くことができます。ポリエステル、綿、レーヨンの糸を使用して、自由自在に直線縫いで線をたどることができます。縫い目の列は布地の裏側に見え、下糸を縫う際のガイドラインとして役立ちます。

BSR機能は下糸縫製にも使えます。デザインした線に沿って、一定の速度で作品を針の下で均等に動かすことをお勧めします。縫製後は安定紙を取り除く必要があります。

縫製サンプルを作成し、右側の結果がどのように見えるかを最初に確認する必要があります。

すべての装飾ステッチがこのテクニックに適しているわけではありません。シンプルな装飾ステッチが最高の結果をもたらします。コンパクトステッチタイプやサテンステッチの使用は避けてください。

注意

不適切なボピンケースが使用されている

ボピンケースの損傷。

> ボピンワークボピン（オプションアクセサリ）を使用します。



> オープン刺しゅう押え #20を合わせます。

> «飾りステッチ»をタップします。

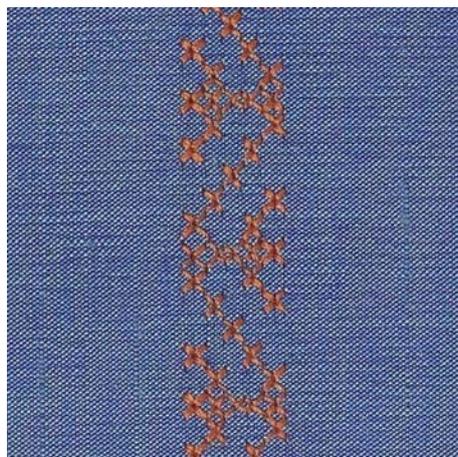
> 適切な装飾ステッチを選択します。

> ステッチの長さを調整するために、「多機能ボタン 上」および「多機能ボタン 下」を回し、太い糸を使用してもきれいなステッチを作成ができるようにステッチの長さでステッチの幅を調整します。



> 上糸調子を調整するには、「上糸調子」をタップします。

7.3 クロスステッチ



クロスステッチは伝統的なテクニックで、よく使われる飾りステッチです。リネン生地にクロスステッチを縫い付けると、手刺しゅうのように見えます。クロスステッチに刺しゅう糸を使用すると、ステッチパターンがとてもきれいに仕上がります。クロスステッチはホームデコレーションや洋服の縁飾り、色々な飾り縫いに適しています。最初の列が歪むと、仕上がりに大きく影響するので、一列目をまっすぐに縫うことが重要です。

> 標準押え #1 または オープン刺しゅう押え #20 を取り付けます。

> カテゴリー300のクロスステッチを選択し、必要であればコンビネーションを作ります。

> 最初の列を確実にまっすぐに縫うには、シームガイド（オプションアクセサリ）またはエッジストップ（オプションアクセサリ）の使用をお勧めします。

> 2列目を押え金の幅に合わせるか、シームガイドを使って最初の列の横に縫います。

7.4 ピンタック

ピンタック



ピンタックは細くつまんだひだを縫ったもので、作品を型紙に合わせてカットする前に前もって縫っておきます。ピンタックは、飾り縫いやホワイトワークなど他の刺しゅうとのコンビネーションに適しています。この手法は、タックフットを使うことで、大幅に簡略化することが可能です。ピンタックでは布のサイズが縮小されます。十分な大きさの布地を用意してください。

タックフットの概要

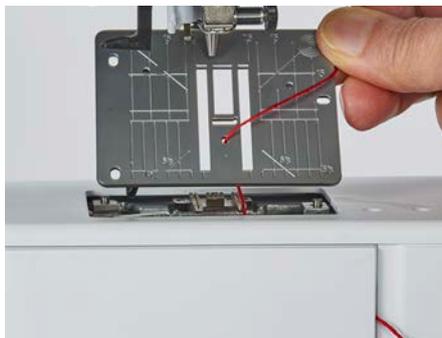
ピンタック押え	番号	説明・用途
	# 30 (オプションアクセサリー)	3本溝 厚地に。 4 mm 幅の二本針
	# 31 (オプションアクセサリー)	5本溝 中厚地から厚地に。 3 mm 幅の二本針
	# 32 (オプションアクセサリー)	7本溝 薄地から中厚地に。 2 mm 幅の二本針

ピンタック押え	番号	説明・用途
	# 33 (オプションアクセサリー)	9本溝 とても軽い素材用 (アクセントヤーンなし)。 1または1.6 mm幅の二本針
	# 46C (オプションアクセサリー)	5本溝 1.6 - 2.5 mm 幅の二本針 極薄地から中厚地に。

アクセントヤーンの引き込み

タックは、アクセントヤーンで縫うと、より特徴的でレリーフのように見えます。アクセントヤーンは、各々の押え金の溝にぴったり収まるものでなければなりません。アクセントヤーンは色落ちしないもの、縮まないものでなければなりません。

- > ミシンの電源を切ります。
- > 針を取り外します。
- > 押え金を取り外します。
- > パンチワーク用針板を取り外します。
- > 釜カバーを開けます。
- > アクセントヤーンを下から釜の隙間部分を通してパンチワーク用針板の穴に通します。
- > 針板を取り付けます。
- > 釜カバーを閉じます。
- > アクセントヤーンは、釜カバーの細い隙間をガイドに使うって自由に送れるようにします。



- > レバーに糸コマを取り付けます。



- > アクセントヤーンがスムーズに動くかどうか確認します。
- > ソーイング中、糸が釜カバーの穴をスムーズに通らない場合には、釜カバーを開けたままにします。
 - 縫っている途中でアクセントヤーンは布の裏側で下糸で固定され/縫いこまれていきます。

ピンタックを縫う

- > 適当な二本針を取り付けます。
- > 二本針に糸をかけます。
- > 下糸を上を持ってきます。
- > 最初のピンタックを縫います。
- > 最初のピンタックを、必要なピンタックの間隔に合った押えの溝の一つに合わせます。
- > 残りのピンタックを最初のピンタックと平行に縫います。

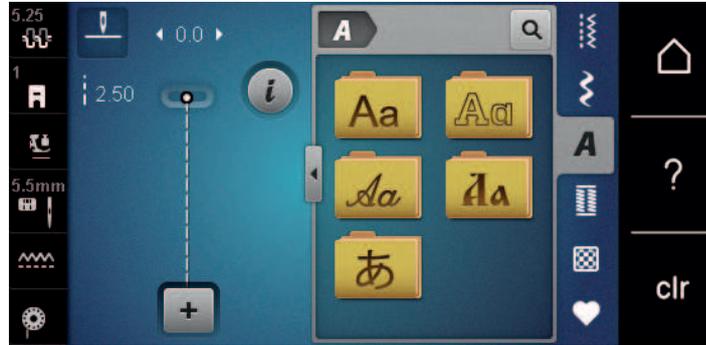


8 アルファベット

8.1 アルファベットについて

ブロック体、アウトライン体、スク립ト体、キリル文字も小文字で縫い付けることができます。

ステッチを完璧に仕上げるためには、上糸と下糸に同じ色の糸を使用することをお勧めします。作品の裏側に刺しゅう安定紙を置いて布地を補強できます。パイル地やタオル地などの毛羽立った布地で作業する場合、布地の表側にも、追加で水溶性の安定紙を乗せて縫いましょう。



ステッチパターン	名前
ABCabc	ブロック体アルファベット
ABCabc	ダブルブロック体
<i>ABCabc</i>	イタリック体アルファベット
АБВабв	キリル文字
あいう	ひらがな

8.2 文字列を入力する



試し縫いには、実際に作品で使用する糸、布地、安定紙を使用することをお勧めします。また布地にしわが寄ったり、引っかかったりせずに布送りが均一になるように注意します。ソーイング中には布地を引っ張ったり押し込んだり、押さえたりしないようにします。



- > «アルファベット»をタップします。
- > 書体を選択します。



- > «コンビネーションモード/シングルモード»をタップして、コンビネーションを作成します。
- > «ウィンドウの拡大/縮小» (1) をタップして、その他の入力モードを表示します。



- > 文字を選択します。
-  > «大文字»をタップすると、大文字になります（標準設定）。
-  > «小文字»をタップすると、小文字になります。
-  > «数字および数学記号»をタップすると、数字の入力ができます。
-  > «特殊文字»をタップすると、特殊文字を入力できます。

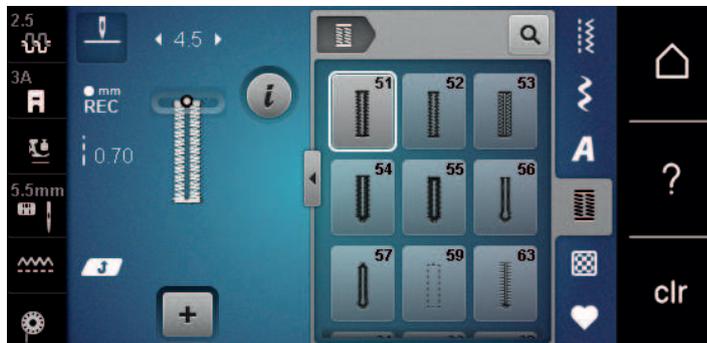


- > «消去»をタップすると、入力したテキストの文字が一つずつ削除されます。
- > «ウィンドウの拡大/縮小»をもう一度タップすると、その他の入力モードが閉じます。

9 ボタンホール

9.1 ボタンホール

BERNINA 485はボタンホールのコレクションを豊富に備え、どのボタン、目的、衣服にでも適切なボタンホールを作ることができます。ボタンもミシンで縫うことができます。アイレットも同様に縫うことができます。

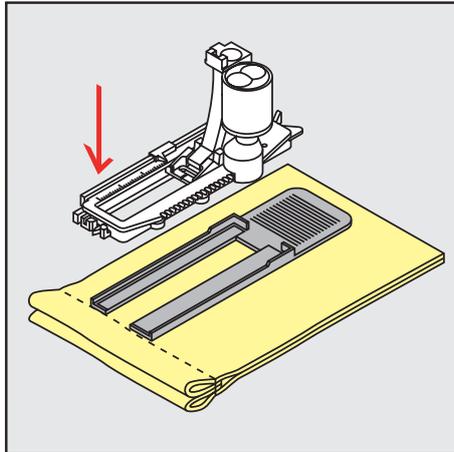


ステッチパターン	ステッチ番号	名称	特徴・用途
	51	標準ボタンホール	ブラウス、ドレス、ベッドリネンなどの薄地から中厚地の生地に。
	52	細い標準ボタンホール	ブラウス、ドレス、子供服や赤ちゃん服、クラフトなどの薄地から中厚地の生地に。
	53	伸縮ボタンホール	伸縮性のある生地全般に。
	54	標準バータック付きラウンドボタンホール	ドレス、ジャケット、コート、レインコートなどの中厚地から厚地に。
	55	水平バータック付きラウンドボタンホール	ドレス、ジャケット、コート、レインコートなどの補強バー付きの中厚地から厚地に。
	56	はと目ボタンホール	ジャケット、コート、レジャーウェアなど、厚手の非伸縮性生地に。
	57	キーホールボタンホール (ポイントバータック付き)	ジャケット、コート、レジャーウェアなど、より丈夫で伸縮性のない生地に。
	59	直線縫いボタンホール	ボタンホールのスティステッチや補強、ボタンホールの縁取りに使用します。特に皮革や合成皮革のボタンホールに。
	60	ボタン縫い付けプログラム	二つ穴、四つ穴のボタンの縫い付け。
	61	小さなジグザグアイレット	コードや細いリボンの穴に、飾りに。
	62	直線縫いアイレット	コードや細いリボンの穴に、飾りに。
	63	ヘアローム(伝統的) ボタンホール	軽量から中程度の厚みの生地を使用した衣類や手工芸品に、手縫い風のステッチ効果を与えるために。

9.2 高さ調節板を使用する

ボタンホールをコーナーや段差部に縫うときは、ボタンホール用高さ調節板（オプションアクセサリ）を使用することをお勧めします。

> 高さ調節板を後ろから布地と押え金との間に差し込み、段差のある部分にセットします。

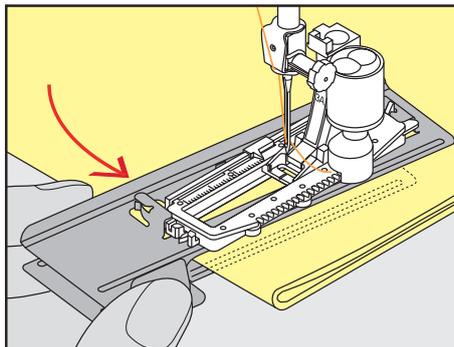


> 押え金を下げます。

9.3 ボタンホール用布送りサポートを使用する

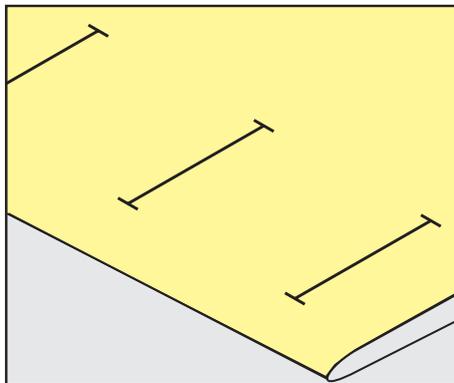
固い布地にボタンホールを縫う場合には、布送りサポート（オプションアクセサリ）の使用をお勧めします。布送りサポートは布ガイド付自動ボタンホール押え#3Aと一緒に使用します。

> 高さ調節板を横からゆっくりと差し込みます。



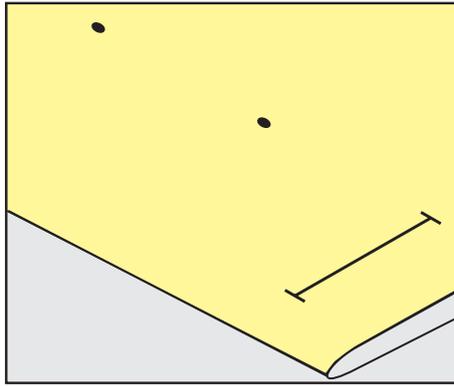
9.4 ボタンホールの印をつける

> 手動でボタンホールを縫う場合には、布地に全てのボタンホールの位置と長さをチャコペンまたは水性ペンで書きます。

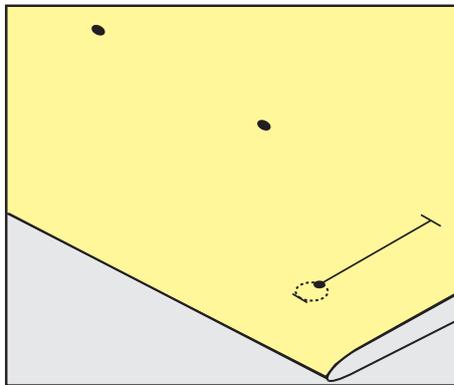


ボタンホール

- > 自動でボタンホールを縫う場合には、布地に最初のボタンホールの位置と長さをチャコペンまたは水溶性のペンで書き、残りのボタンホールは縫い始めの位置のみに印をつけます。



- > はと目ボタンホールおよびラウンドボタンホールを縫う場合には、布地にボタンホールの長さをチャコペンまたは水溶性のペンで書き、残りのボタンホールは縫い始めの位置のみに印をつけます。はと目の部分はボタンホールの長さに加えて縫われます。



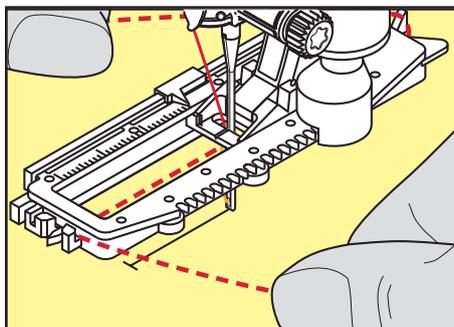
9.5 ボタンホール芯

コード芯を布ガイド付き自動ボタンホール押え #3A と一緒に使用します

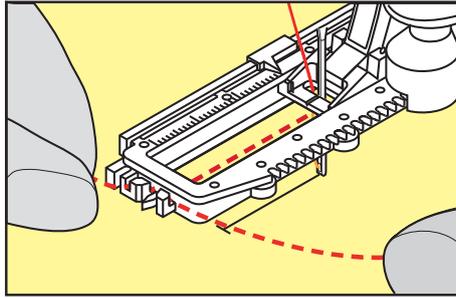
ボタンホール芯はボタンホールの強度を強くまた仕上がりをよくし、特に標準ボタンホールNo. 51に適しています。使用するコード芯はパールコットン刺しゅう糸の8番、強度のある手縫い用糸、およびかぎ編み用糸が理想的です。ボタンホールを縫う際にはボタンホール芯を押さえないようにします。

前提条件：

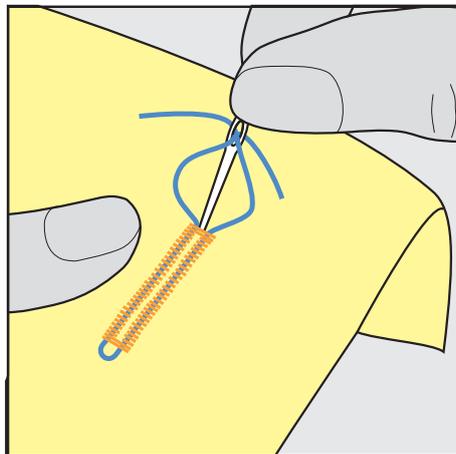
- ・ 布ガイド付き自動ボタンホール押え #3Aを取り付けたら、上に上げます。
- > ボタンホールの縫い始めの位置に針を刺します。
- > ボタンホール芯を布ガイド付き自動ボタンホール押えの右下に入れます。
- > ボタンホール芯を押えの後方にあるピンに引っ掛けます。



- > ボタンホール芯を押えの左下から前に引っ張ります。



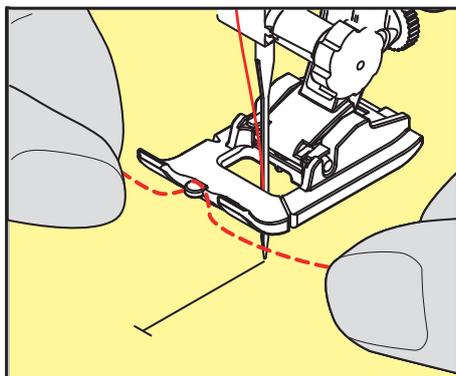
- > ボタンホール芯の端を止め具に引っ掛けます。
- > 布ガイド付き自動ボタンホール押えを下げます。
- > ボタンホールを縫います。
- > ボタンホール芯のループがボタンホールの縫い目の下に隠れるように引っ張ります。
- > ボタンホール芯の終わりを、手縫い針を使用して布の裏側に出し、結ぶか留め縫いをします。



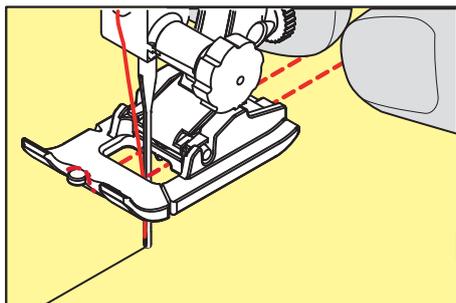
ボタンホール芯をボタンホール押え#3と一緒に使用します

前提条件：

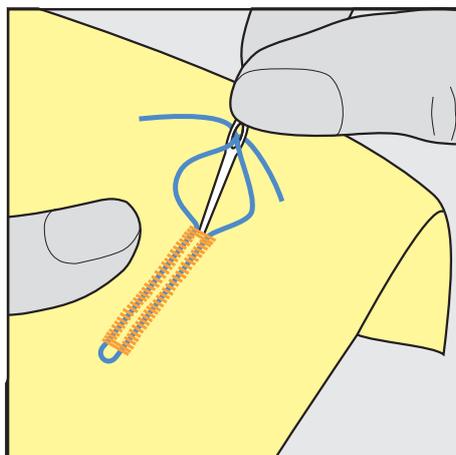
- ・ ボタンホール押え #3 を取り付けたら、上に上げます。
- > ボタンホールの縫い始めの位置に針を刺します。
- > 押えの前方の突起にボタンホール芯を引っ掛けます。



- > ボタンホール芯の両端を押えの後ろにもって行き、それぞれの芯糸を押えの溝に入れます。



- > ボタンホール押えを下げます。
- > ボタンホールを縫います。
- > ボタンホール芯のループがボタンホールの縫い目の下に隠れるように引っ張ります。
- > ボタンホール芯の終わりを、手縫い針を使用して布の裏側に出し、結ぶか留め縫いをします。



9.6 試し縫いをする

常に同じ布地でボタンホールの試し縫いをします。同じ安定紙を使用し、同じボタンホールを選択することをお勧めします。テストサンプルもそれぞれの方向に縫製する必要があります。テストサンプルを縫製することで、縫製結果が満足のものになるまで設定を調整できます。

柔らかく織り目の粗い素材や、ひどく引っ張られたボタンホールを扱う場合、ボタンホールの下に直線縫いボタンホールNo. 59を敷くと良いでしょう。また、革、ビニール、フェルトでボタンホールを補強するのもお勧めです。

手動の標準ボタンホール、キーホール、丸いボタンホールを縫うときにバランスを変更すると、両方のビーズに同じように影響します。手動のキーホールまたは丸いボタンホールの場合、変更は両側に逆の影響を与えます。

ステッチカウンター機能を使用し、バランスに関して変更を加えると、その変更は両方のボタンホールビーズに異なる影響を与えます。



- > «ボタンホール»をタップします。
- > ボタンホールを選択します。
- > 希望する押え金を選択して取り付けます。
- > 布地を押え金の下に置き、押え金を下げます。
- > フットコントローラを慎重に押して、縫製を開始します。生地を少しだけ動かします。
- > 縫製中にバランスを確認し、必要に応じて調整します。
- > 試し縫いを確認し、必要に応じてさらに修正を加えます。

9.7 ボタンホールの穴幅を設定する

ボタンホールの穴幅を0.1-2.0mmの間で設定することができます。



- > «ボタンホール»をタップします。
- > ボタンホールを選択します。



- > «iダイアログ»をタップします。



- > «ボタンホール»をタップします。
- > 多機能ボタン 上または「多機能ボタン 下」を回して、ボタンホールの穴幅を設定します。

9.8 布ガイド付き自動ボタンホール押え #3Aを使用して、ボタンホールの大きさを決めます



ディスプレイの下部の黄色い丸枠の真ん中に直接ボタンを当てます。「多機能ボタン 上/下」を回すと、黄色い丸枠の大きさが変わり、ボタンの直径を測ることができます。

ボタンの直径には自動的に2 mmが加算され、ボタンホールの長さが出ます。例えば、ボタンの直径が14 mmの場合、ボタンホールの大きさは16 mmと計算されます。

前提条件：

- ・ 布ガイド付き自動ボタンホール押え #3Aを取り付けます。



- > «ボタンホール»をタップします。
- > ボタンホールを選択します。



- > «iダイアログ»をタップします。



- > «ボタンホールの長さを調整する»をタップします。
- > «多機能ボタン 上»または「多機能ボタン 下」を回して、ボタンホールの長さを設定します。

9.9 ボタンホール押え#3を使用して、ボタンホールの大きさを決めます

ボタンホール押え #3 を使用して、ステッチカウンタ機能でボタンホールの長さを決定します。ステッチカウンタ機能は全てのボタンホールに適しています。ボタンホールの左側は前進で、右側は後進で縫われます。バランスが変更された場合には、それぞれのボタンホールでステッチカウンタ機能を新しく保存しなおす必要があります。

前提条件：

- ・ ボタンホール押え #3 を取り付けます。



- > «ボタンホール»をタップします。
- > ボタンホールを選択します。



- > «iダイアログ»をタップします。

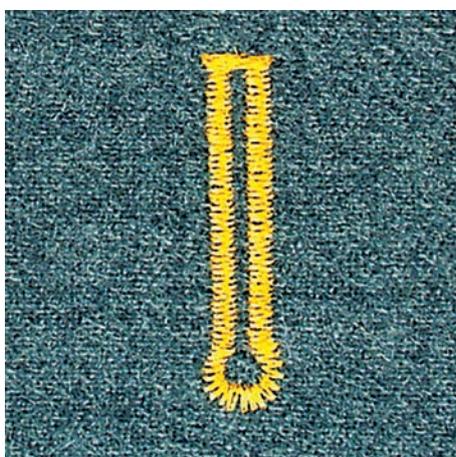


- > «ステッチカウンタで長さをプログラムする»をタップします。
- > 必要なボタンホールの長さを縫います。
- > ミシンを止めます。



- > «返し縫い» ボタンを押すと、ミシンが手前側のバータックと反対側の穴かがりを後進で縫います。
- > 最初の穴かがりの縫い始め位置まで来たら、ミシンを止めます。
- > «返し縫い» ボタンをもう一度押すと、ミシンが奥側のバータックと留め縫いを縫います。
 - ボタンホールの長さは、ミシンの電源を切るまで保存されるので、続けて同じボタンホールを縫うことができます。

9.10 布ガイド付き自動ボタンホール押えNo. 3Aを使用して、ボタンホールを自動で縫います



布ガイド付き自動ボタンホール押え #3Aを使用すると、押え金の下についたセンサーでボタンホールの長さが自動的に計測されます。同じ大きさのボタンホールを正確にコピーすることができ、ミシンはちょうどよい幅に自動で切り替えます。布ガイド付き自動ボタンホール押え #3Aは、ボタンホールのタイプによって 4 - 31 mm のボタンホールを縫う際に適しています。長さを正確に測るために、布ガイド付き自動ボタンホール押え #3Aが布地に対して平行に接していなければなりません。プログラムされたボタンホールはすべて同じ長さでそろって縫われます。

前提条件：

- ・ 布ガイド付き自動ボタンホール押え #3Aを取り付けます。



- > «ボタンホール»をタップします。
- > ボタンホールNo. 51 - 57、No. 59または63を選択します。
- > 必要なボタンホールの長さを縫います。



- > «返し縫い»ボタンを押して、ボタンホールの長さをプログラムします。



- > «スタート/ストップ»ボタンを押すか、フットコントローラーを踏み込みます。
 - ミシンがボタンホールを最後まで自動的に縫います。残りのボタンホールも同じように自動的に縫われます。

9.11 7ステップ自動ボタンホールを縫う

ボタンホールの長さはソーイング中に好きなサイズに決められます。パータックとは目、留め縫いはプログラムされています。各ステップは矢印アイコンでのスクロールおよび«返し縫い» ボタンで選択できます。

前提条件：

- ・ ボタンホール押え #3 を取り付けます。



- > «ボタンホール»をタップします。
- > 標準ボタンホール No. 51 を選択します。



> «iダイアログ»をタップします。



- > «長さをマニュアルで設定する»をタップします。
 - ディスプレイにステップ1がボタンホールの縫い始めとしてアクティブになります。
- > 必要なボタンホールの長さを縫います。
 - 縫い始めにはステップ2がアクティブになります。



- > 必要なボタンホールの長さまたは印をつけた位置で、ミシンを止めます。
- > «スクロール 下» をタップすると、ステップ3が表示されます。
 - ミシンが逆方向に直線縫いをします。
- > ボタンホールの縫い始め位置まで来たら、ミシンを止めます。
- > «スクロール 下» をタップすると、ステップ4が表示されます。
 - ミシンが奥側のパートタックを縫い、自動的に停止します。
- > «スクロール 下» をタップすると、ステップ5が表示されます。
 - ミシンがもう一つの穴かぎりを縫います。
- > 最初の穴かぎりの縫い始め位置まで来たところでミシンを止めます。
- > «スクロール 下» をタップすると、ステップ6が表示されます。
 - ミシンが手前側のパートタックを縫い、自動的に停止します。
- > «スクロール 下» をタップすると、ステップ7が表示されます。
 - ミシンが留め縫いをして、自動的に止まります。

9.12 5 ステップ自動ボタンホールを縫う

ボタンホールの長さはソーイング中に好きなサイズに決められます。パートタックとはと目、留め縫いはプログラムされています。各ステップは矢印アイコンでのスクロールおよび«返し縫い» ボタンで選択できます。

前提条件：

- ・ ボタンホール押え #3 を取り付けます。



- > «ボタンホール»をタップします。
- > 標準パートタック付きラウンドボタンホール No. 54 を選択します。



> «iダイアログ»をタップします。



- > «長さをマニュアルで設定する»をタップします。
 - ディスプレイにステップ1がボタンホールの縫い始めとしてアクティブになります。

ボタンホール

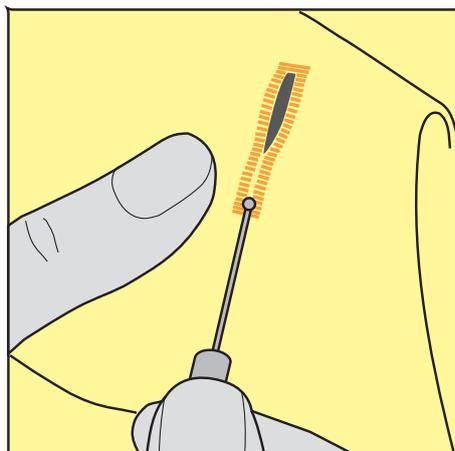
- > 必要なボタンホールの長さを縫います。
 - ステップ2がアクティブになります。



- > 必要なボタンホールの長さまたは印をつけた位置で、ミシンを止めます。
- > 「スクロール 下」をタップすると、ステップ3が表示されます。
- > ミシンがバータックまたははと目を縫って、自動的に止まります。
- > 「スクロール 下」をタップすると、ステップ4が表示されます。
 - ミシンがもう一つの穴かぎりを後進で縫います。
- > ボタンホールの縫い始め位置まで来たところでミシンを止めます。
- > 「スクロール 下」をタップすると、ステップ5が表示されます。
 - ミシンが奥側のバータックを縫い、自動的に縫い止めします。

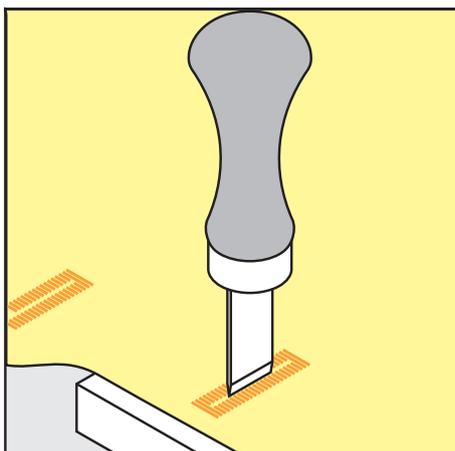
9.13 ボタンホールをシームリッパーで切り開く

- > バータックを切らないように、両端にまち針を刺しておきます。
- > ボタンホールの両端から真ん中に向けて、ボタンホールを切り開いていきます。



9.14 ボタンホールカッター（オプションアクセサリ）でボタンホールを切り開く

- > ボタンホールを木片などの上に置きます。



- > ボタンホールカッターをボタンホールの真ん中に合わせます。
- > ボタンホールをカッター下へ強く押しします。

9.15 ボタンを縫い付ける

ボタン縫い付けプログラムを使用すると、2つまたは4つの穴のあるボタン、ホック、またはスナップボタンを縫い付けることができます。

推奨縫製プログラム:	ボタン縫い付けプログラム No. 60
推奨押え金:	ボタン付け押え #18
代わりの押え金:	<ul style="list-style-type: none"> ・ 標準押え #1/1C ・ つくろい縫い押え #9 ・ 透明の押え金の付いた標準押え #34/34C

糸シャンクの調整

厚い生地の場合、糸シャンク（ボタンと生地間の距離）を大きくします。

薄い生地には縫い付けられたボタンや装飾目的のみのボタンは、「糸シャンク」なしで縫い付けられます。

注意！ 糸シャンクの調整は、ボタン縫い付けフット_#18を使用する場合にのみ可能です。

- > 押え金の後ろ側についているネジを緩めます。
- > 生地の厚さに合わせてバーを上へ押し上げます。
- > ネジを締めます。

ボタンの縫い付け

前提条件：

- ・ 生地の厚さに合わせてシャンク長を調整します。
- ・ ボタン付け押え #18、または代わりとなる押え金を取り付けられます。
- ・ 送り歯が下がります。



- > «ボタンホール»をタップします。
- > ボタン縫い付けプログラム No. 60を選択します。
- > 下糸が出てくるまではずみ車を回します。
- > **注意！** ボタン縫い付けプログラムは、常にボタンの左の穴の上から縫い付けを開始します。ボタンを布の上に配置します。針が左の穴に縫い込まれるように、ボタンと布地を針の下に置きます。
- 4つの穴があるボタンの場合は、最初に前面の最初の2つの穴を縫います。
- > 押え金を下げます。
- > はずみ車を使用して、左の穴に最初のステッチを行います。
- > 針が右の穴に変わるまではずみ車を回し続けます。その際、針が正しい穴に入るかどうかを確認してください。必要に応じて、上部のマルチファンクションノブを回してステッチ幅を調整します。
- > 糸を掴んでフットコントローラを押します。
 - ミシンはボタンを縫い付けて自動的に停止します。
- > 安定性を高めるために、ボタン縫い付けプログラムで再度縫い付けます。
- > ミシンで糸を切ります。あるいは、ミシンの下から縫製中の作品を引き出し、手で糸を切ります。上糸を布地の裏側に引っ張り、下糸と結びます。

9.16 アイレットを縫う



二重に縫うと、よりしっかりしたアイレットが縫えます。必要に応じてバランスを調整します。

前提条件：

- ・ 標準押え #1またはオープン刺しゅう押え#20を取り付けます。



- > «ボタンホール»をタップします。
- > 小さなジグザグアイレット No. 61または直線縫いアイレット No. 62を選択します。
- > アイレットの大きさを変更するためには、「多機能ボタン 上」または「多機能ボタン 下」を回します。
- > アイレットプログラムを縫います。
 - ミシンはアイレットプログラムを縫い終わると自動的に停止します。
- > 目打ちやパンチプライヤー、穴あけなどでアイレットの穴を開けます。

10 キルティング

10.1 キルトステッチについて



ステッチパターン	ステッチ番号	名前	説明
⋮	No. 1301	キルティング、留め縫い	縫い始めと縫い終わりに前進で短い留め縫いをするため。
⋮	No. 1302	キルティング、直線縫い	長さ3 mmのステッチ長の直線縫いでのマシンキルティング用。
⋮	No. 1303	パッチワークステッチ、直線縫い	長さ2 mmのステッチ長の直線縫いで、パッチワークのピースを縫い合わせる際に。
⋮	No. 1304 – No. 1308	手縫い風キルトステッチ	モノフィラメント糸を使った、手縫い風の縫い付け作業に。
⌋	No. 1309 – No. 1314	ブランケットステッチ	アップリケや、飾りリボンの縫い付けに。
▮	No. 1315	サテンステッチ	アップリケに。
⌋	No. 1316	ふり幅の小さいまつり縫い	アップリケを見えないように縫い付ける際に。
〰	No. 1317 – No. 1324	飾り縫いキルトステッチ	キルティング、クレイジーパッチワーク、装飾、仕上げを施す際に。
〰	No. 1331	スティッピングステッチ／蛇行ステッチ	メアンデルステッチ風に。
〰	No. 1332 – No. 1334	フェザーステッチ	キルティング、クレイジーパッチワーク、装飾、仕上げを施す際に。

10.2 キルティング用留め縫いプログラム

前提条件：

- ・ 標準押え #1を取り付けます。

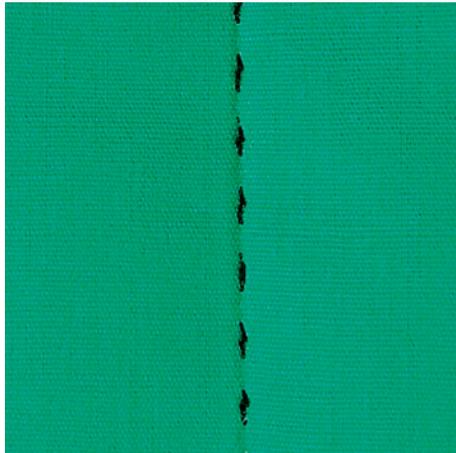


- > «キルトステッチ»をタップします。
- > キルティング、留め縫い No. 1301を選択します。
- > フットコントローラーを踏み込みます。
 - 縫い始めにミシンが自動的に、前進で短く6針縫います。
- > 必要な長さを縫います。



- > «返し縫い»ボタンを押します。
 - ミシンが自動的に、前進で短く6針を縫い、留め縫いした後止まります。

10.3 手縫い風ステッチを縫う



手縫い風キルトステッチは、手縫いのように見える必要のあるすべての生地や縫製作品に適しています。上糸にはモノフィラメント糸、下糸には刺しゅう糸を使用することをお勧めします。ソーイング速度は、モノフィラメント糸が切れないように中程度にしてください。必要に応じて、上糸調子とバランスは裁縫作業と目的のキルトステッチに合わせて調整できます。

前提条件：

- ・ 標準押え #1は取り付けられています。



- > «キルトステッチ»をタップします。
- > 手縫い風キルトステッチ No. 1304、またはNo. 1305、No. 1306、No. 1307、またはNo. 1308を選択します。
- > 必要に応じて、上糸調子とバランスを裁縫作業と目的のキルトステッチに合わせて調整します。
- > ミシンを動かすには、フットコントローラーを足で押すか、ボタン«スタート/ストップ»を押します。

10.4 フリーモーションキルティング



フリーモーションキルティングと繕い縫いは、同じ原理の手法です。スティップリング模様は布地全体がキルトステッチで埋められます。キルティングのラインは丸く、ステッチ同士が交差しないように気をつけます。



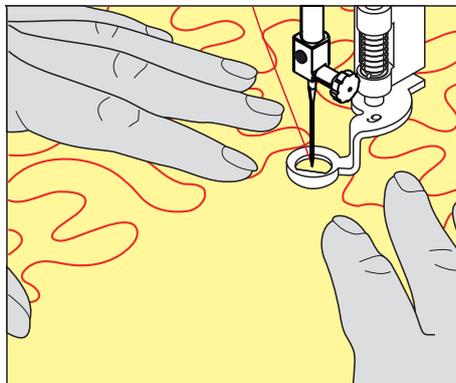
- ・ 滑り止め付きキルト用手袋を使用すると、布送りが簡単になります。
- ・ 最大限に良い結果を出すために 強テンションペルニナボビンケース（オプションアクセサリー）の使用をお勧めします。
- ・ ソーイングテーブルと押え上げレバーの使用をお勧めします。
- ・ フリーモーションキルティングは中心から外に向かって縫っていき、作品をスムーズに丸く動かしながら、全体に導き、描きたいデザインを描いていくことをお勧めします。

前提条件：

- ・ キルトの表地、キルト芯、キルトの裏地をしっかり留めておきます。
- ・ 送り歯を下げます。
- ・ つくろい縫い押え #9 を取り付けます。



- > «実用縫い»をタップします。
- > 直線縫い No. 1 を選択します。
- > 必要があれば、上糸調子を調整します。
- > 布地がずれるのを防ぐために、針の位置を下に選択します。
- > フットコントローラーを踏むか、「スタート/ストップ」ボタンを押して、ミシンをスタートさせます。
- > 両手を枠のようにして押え金のそばに置き、枠の中で布を動かすようにします。このとき、同じ場所に続けて針が刺さらないようにします。
- > 角のキルトティングをするときにはステッチの間隔を最小にするよう、ステッチ速度を落とします。
- > 糸が表側にたまる場合は、布送りを遅くします。
- > 裏側に糸ダマができる場合は、布送りを速くします。



11 ベルニナステッチレギュレーター (BSR) (オプションアクセサリー)

ベルニナステッチレギュレーターは人気のフリーモーションソーイングでの送り長さを一定に保ちます。BSR押えをフリーモーションソーイングで使用すると、全てのステッチの長さが均一に保たれ、作品の見た目をきれいに仕上げることができます。

BSR押えが取り付けられ、送り歯が下げられると、ミシンのディスプレイ上に選択可能なモードが表示されます。BSR押えは直線縫い、ジグザグ縫いのどちらにも使用できます。

BSR押えは布地の動きに反応し、布を動かすことで最高速度までの範囲でミシンのスピードをコントロールできます。その際、布地を早く動かせば、ミシンのスピードも速くなります。

布地の動きが速すぎると、警告音が鳴ります。警告音は「BSR」ディスプレイでオン/オフの設定ができます。警告音はセットアッププログラムからもオン/オフの設定ができます。

11.1 BSRモード1

BSR機能はフットコントローラーまたは「スタート/ストップ」ボタンで操作することができます。BSRモードをスタートさせます。押え金の赤いランプが点灯します。布地を動かすことによって、ミシンのスピードをコントロールします。布地の動きを止めると、何もしなくてもその場で留め縫いをすることもできます。フットコントローラーまたは「スタート/ストップ」ボタンを使用する場合には、BSR 1モードは自動的に終了しません。

11.2 BSRモード2

BSR機能はフットコントローラーまたは「スタート/ストップ」ボタンで操作することができます。ミシンは、フットコントローラーを踏み込むか、「スタート/ストップ」ボタンが押されるのと同時に、布地を動かすことによって動き出します。布地の動きが止まってから約7秒後にBSR 2モードはオフになります。押え金の赤いランプは、「スタート/ストップ」ボタンでの操作時にのみ消え、フットコントローラーでの操作時には消えません。

11.3 BSR機能を直線縫いNo. 1で使用する

この機能を使用して、4 mmまでの送り長さの直線縫いを使用したフリーモーションキルティングができます。設定した送り長さは一定の速度までは、布地の動きに関係なく保たれます。

11.4 BSR機能をジグザグ縫いNo. 2で使用する

ジグザグステッチはスレッドペインティングに適しています。ジグザグステッチでは送り長さは保たれませんが、BSR機能が作業を簡単にします。

11.5 キルティングの準備をする

BSR押えを取り付ける

前提条件：

- ・ ミシンがオフになっていること。
 - ・ 針が上がっていること。
 - ・ 押え金が上がっていること。
- > 据え付けられている押え金を外します。
- > BSR押えを取り付けます。
- > ケーブルのプラグを、BSRコネクタ(1)に垂直にカチッと音がするまで差し込みます。



- > ミシンの電源を入れます。
- BSRディスプレイが開き、BSR1モードがオンになります。

押え底を交換する

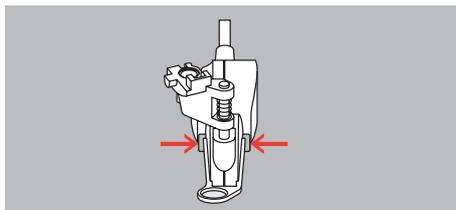
注意

BSR押えのセンサーが汚れていると

ミシンがBSR押えを認識しません。

> センサーを柔らかい、軽く湿らせた布で拭きます。

- > 針を上げます。
- > BSR押えを上げます。
- > ミシンの電源を切ります。
- > BSR押えを外します。
- > BSR押えの横のボタンを両方押します。



- > 押え底を下に引き、はずします。
- > 新しい押え底をしっかりとハマるまで上に押し込みます。
- > BSR押えを取り付けます。

11.6 BSRモードを使用する

BSR機能はフットコントローラーまたは「スタート/ストップ」ボタンで操作できます。

フットコントローラーで縫う：キルティング中はフットコントローラーを踏んだままにします。布地を動かさなくても、フットコントローラーから足を離すまではBSRモード1が機能しています。

BSRモード2でキルティングを中止すると、針位置によってはミシンがもう一針縫って針位置を上にしてから停止します。

前提条件：

- ・ ソーイングテーブルを取り付けます。
- ・ 押え上げレバーを取り付けます。

- > 送り歯を下げます。
- > 使用したいBSRモードを設定します。
- > 押え金を下げます。
- > フットコントローラーを踏み込むか「スタート/ストップ」ボタンを押すと、設定したBSRモードが起動します。
 - BSR押えの赤いランプが点灯します。
- > 布地を動かし、BSRモードでミシンのスピードをコントロールします。
- > 「スタート/ストップ」ボタンをもう一度押すか、フットコントローラーから足を離して、BSRモードを終了します。
 - BSRモードが終了し、押え金の赤いランプが消えます。



BSR



11.7 留め縫い

BSRモード1で、「スタート/ストップ」ボタンを使用して留め縫いする

前提条件：

- ・ BSR押えを取り付け、ミシンに接続します。
- ・ BSRディスプレイが開き、BSRモード1がアクティブになっています。

- > 送り歯を下げます。
- > 押え金を下げます。
-  > «針位置 上/下» ボタンを2回押します。
 - 下糸が出てきます。
- > 上糸と下糸を押えます。



- > «スタート/ストップ» ボタンを押します。
 - BSRモードがスタートします。

- > 5-6針留め縫いをします。



- > «スタート/ストップ» ボタンを押します。
 - BSRモードがストップします。

- > 糸を切ります。

BSR2モードでの留め縫い

前提条件：

- ・ BSR押え金を取り付けられ、ミシンに接続されます。
- ・ BSRディスプレイが開き、BSR2モードが有効になります。

- > 押え金を下げます。



- > ボタン«留め縫い»を押します。

- > フットコントローラを押すか、またはボタン«スタート/ストップ»を押します。

布地を動かすと短い留め縫いを数針縫った後、ミシンはステッチの長さをプログラムした状態に戻し、留め縫い機能を自動的にオフにします。

12 お手入れとメンテナンス

12.1 ファームウェア

ファームウェアのバージョンを確認する

ミシンのファームウェアとハードウェアのバージョンが表示されます。



> «ホーム»をタップします。



> «セットアッププログラム»をタップします。



> «ミシンの設定»をタップします。



> «情報»をタップします。



> «マシンデータ»をタップします。

ファームウェアを更新する



ミシンの最新ファームウェアと更新プロセスの順を追った詳しい手順は、www.bernina.com/485-supportからダウンロードできます。基本的に更新の際、ユーザーデータと設定は自動的に引き継がれます。念のためファームウェア更新の前には、バックアップとしてデータをベルニナUSBメモリーに保存しておくことをお勧めします。更新の際に、万が一これらのデータが失われてしまった場合には、バックアップから再びデータを戻すことができます。

前提条件：

- ・ ベルニナ刺しゅう機またはベルニナステッチレギュレーター押さえのような、本機に接続されているアクセサリを取り外します。

> 最新のファームウェアバージョンを搭載したUSBメモリーをマシンに差し込みます。



> «ホーム»をタップします。



> «セットアッププログラム»をタップします。



> «ミシンの設定»をタップします。



> «メンテナンス/アップデート»をタップします。



> «ファームウェアを更新する»をタップします。



> ファームウェアの更新を開始するには、「アップデート»をタップします。

ヒント：この更新には数分かかる場合があります。更新中はミシンの電源は切らず、USBメモリーは外さないでください。

– ミシンは再起動します。更新が完了すると、通知が表示されます。

保存したデータを復元する

ユーザーデータや設定がソフトウェアのアップデートの際に失われてしまった場合に、再び復元させることができます。

> データと設定を保存したベルニナUSBメモリーをミシンのUSB端子に差し込みます。



> «ホーム»をタップします。



> «セットアッププログラム»をタップします。



> «ミシンの設定»をタップします。



> «メンテナンス/アップデート»をタップします。



> «ファームウェアを更新する»をタップします。

注意

ベルニナUSBメモリー（オプションアクセサリ）を取り外すのが早すぎると保存したデータが正しく読み込まれず、ミシンを使用できません。

> ベルニナUSBメモリーは、保存したデータの読み込みが完全に終了してから取り外してください。



> «データを読み込む»をタップします。

– データが転送されると、緑色のチェックマークが短時間表示されます。

12.2 ミシン

ディスプレイを掃除する

> ディスプレイは電源をオフにした状態で、柔らかく、軽く濡らしたマイクロファイバーの布で拭きます。

送り歯を掃除する

針板の下にたまった糸くずは、時々取り除くようにします。

> 針と押え金を挙げます。

注意

電動部品の取り扱いについて

針と釜の部分でけがをすることがあります。

> ミシンの電源を切り、電源コードをプラグから外しておきます。

> 針と押え金を取り外します。

> 送り歯を下げます。



> 針板を取り外します。

注意

ミシンの中にたまったゴミや糸くず

機械部品と電子部品の損傷。

> 刷毛や柔らかい布を使用します。

> 圧縮空気スプレーは使用しないでください。

> 送り歯をブラシで掃除します。

釜を掃除する



注意

電動部品の取り扱いについて

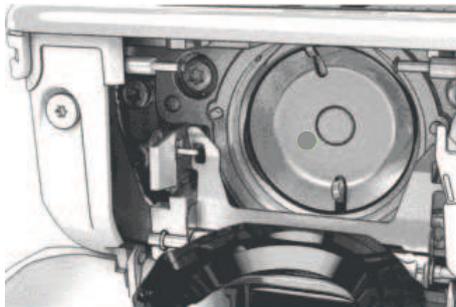
針と釜の部分でけがをするおそれがあります。

> ミシンの電源を切り、電源コードをプラグから外しておきます。

- > 釜カバーを開けます。
- > ボビンケースを取り出します。
- > 取り外しレバーを左に押します。



- > 固定ブラケットを黒いボビンカバーと一緒に折り畳みます。
- > 中釜を取り出します。



注意

ミシンの中にたまったゴミや糸くず

機械部品と電子部品の損傷。

- > 刷毛や柔らかい布を使用します。
- > 圧縮空気スプレーは使用しないでください。

- > フックレース部分をブラシと柔らかい布で汚れをふき取ります。先の尖った器具は決して使用しないでください。
- > 中釜の中央のピンを指でつまみます。
- > 中釜の下端をボビンカバーの奥に上から下へ斜めに差し込むように入れます。
- > 中釜ドライバーの2つの突起が中釜の対応する穴に合うように中釜を配置します。中釜ドライバーの灰色のマークが中釜の穴に見えるようにセットしなければなりません。
- > 中釜を入れます。
 - シャトルは磁石なので、正しい位置に引き寄せられます。
- > リリースブラケットがかみ合うまで、釜カバーと固定ブラケットを閉じます。
- > 確認のため、はずみ車を回します。
 - 中釜は回転します。
- > ボビンケースを戻します。

釜に注油をする



注意

電動部品の取り扱いについて

針と釜の部分でけがをするおそれがあります。

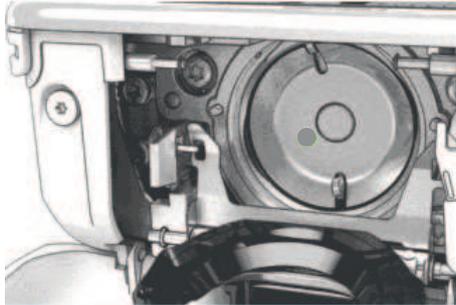
> ミシンの電源を切り、電源コードをプラグから外しておきます。

- > ボビンケースを取り出します。

- > 取り外しレバーを左に押しします。



- > 黒の大釜カバーを開きます。
- > 釜をはずします。



注意

釜に注油をする

- 注油の量が多すぎると、布地や糸を汚してしまう恐れがあります。
- > 注油後はまず試し縫い用の布にソーイング／刺しゅうをします。

- > ベルニナミシンオイルを釜の軌道内に1滴加えます。



- > フェルトが湿るように、ベルニナミシンオイルを二つの油溜りに一滴ずつ注します。赤い印のついた釜軸にはオイルがつかないようにします。



- > 中釜の中央のピンを指でつまみます。
- > 中釜の下側を大釜カバーの奥に、上から下へ斜めに差し込むように入れます。
- > 中釜を二つのカムがそれぞれの穴に合うようにし、グレーの印が見えるようにセットします。
- > 中釜を入れます。
 - 中釜は磁石になっているので、正しい位置に装着されます。
- > 大釜カバーを閉じて、留め金を閉じます。
- > はずみ車を回して確認します。
- > ボビンケースを取り付けます。

糸くず入れの掃除



> «ホーム»をタップします。



> «セットアッププログラム»をタップします。



> «ミシンの設定»をタップします。



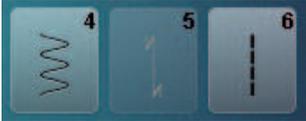
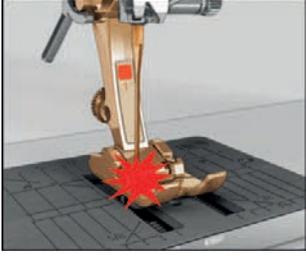
> «メンテナンス/アップデート»をタップします。



> «糸くず入れの掃除»をタップします。
> ディスプレイの説明に沿って、糸くず入れの掃除をします。

13 エラーと故障

13.1 エラー表示

ディスプレイのメッセージ	原因	解決策
	ステッチ番号が不明です。	> 入力内容を確認し、新しい番号を入力してください。
	コンビモードでステッチパターンの選択ができません。	> 他のステッチパターンを組み合わせます。
	送りが歯が下がりません。	> ボタン«送りが歯 上/下»を押して、送りが歯を下げます。
	選択した針と針板を組み合わせ使用できません。	> 針を交換してください。 > 針板を交換してください。
	針が先端にありません。	> はずみ車で針の位置を調整します。
	メインモーターが動きません。	> 針が最上部の位置になるまで、はずみ車を時計回りに回します。 > 縫製中の作品を取り除きます。布地や糸を引っ張らないでください。 > 針板を取り外します。 > 糸くずを取り除きます。 > 中釜を掃除します。 > 中釜を取り外し、中釜の磁気背面に折れた針の破片がないことを確認します。 > 中釜を正しく入れます。
BERNINA USBメモリー（オプションアクセサリ）の空き容量が足りません。	BERNINA USBメモリー（オプションアクセサリ）の空き容量が不足しています。	> BERNINA USBメモリー（オプションアクセサリ）が使用されていることを確認してください。 > BERNINA USBメモリー（オプションアクセサリ）からデータを削除します。
BERNINA USBメモリー（オプションアクセサリ）にユーザーデータがありません。	BERNINA USBメモリー（オプションアクセサリ）では、復元のためにユーザーデータは利用できません。	> データや設定がBERNINA USBメモリー（オプションアクセサリ）に保存されているか確認してください。

エラーと故障

ディスプレイのメッセージ	原因	解決策
ユーザーデータの回復に失敗しました。	ファームウェアのアップデートは成功しましたが、ユーザーデータは回復できませんでした。	<ul style="list-style-type: none"> > データと設定がBERNINA USBメモリーに保存されていることを確認します。 > 保存したデータをミシンに転送します。
BERNINA USBメモリーが挿入されていません。自動更新プロセス全体を通じて、同じBERNINA USBメモリーが接続されたままになっていることを確認してください。	BERNINA USBメモリー（オプションアクセサリー）が挿入されていません。	<ul style="list-style-type: none"> > 十分な空き容量を備えたBERNINA USBメモリー（オプションアクセサリー）を使用してください。
ファームウェアのアップデートに失敗しました。	USBメモリーに最新のファームウェアバージョンが見つかりません。	<ul style="list-style-type: none"> > ファームウェアのアップデートのために、圧縮されたzipファイルが解凍されていることを確認してください。 > ソフトウェア更新のデータがUSBメモリー上のファイルではなく、データ媒体に直接保存されているかどうかを確認します。 > ファームウェアを更新しています。
	<p>ミシンは清掃/注油する必要があります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> > ミシンを清掃してください。 > 中釜に潤滑油を差します。 <p>注油に関する重要な情報: 油が多すぎると生地や糸にシミがつくことがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> > 注油後は必ずテストピースに刺しゅうを行ってください。
自動糸カッター（糸キャッチャー部分）を清掃する必要があります。	自動糸カッターは清掃が必要です。1000回の切断サイクルが実行されるとすぐに、ミシンを起動するたびにこのメッセージが表示されます。	<ul style="list-style-type: none"> > «決定»をタップします。 <ul style="list-style-type: none"> - 本ミシンは、「糸キャッチャーをクリーニング」機能呼び出します。 > ディスプレイの指示に従って糸キャッチャーを清掃します。 <ul style="list-style-type: none"> - 切断サイクルのカウンターがリセットされます。
定期メンテナンスの時期です。ご予約は、正規のベルニナ販売店までお問い合わせください。	<p>このミシンにはメンテナンスが必要です。プログラムされたサービス間隔が経過すると、このメッセージが表示されます。</p> <p>重要事項: 適切なタイミングでミシンを適切に清掃および保守することで、ミシンが適切に機能し、耐用年数が長くなります。遵守されない場合、耐用年数に悪影響が及ぶ可能性があります。保証サービスが制限されることがあります。保守作業にかかる費用の配分は国によって規制されています。詳細については、正規のベルニナ販売店またはサービスセンターにお問い合わせください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> > ベルニナ販売店にお問い合わせください。 > アイコン«ESC»にタッチしてメッセージを一時的に削除します。 <p>3回目の削除後、次のサービス間隔に達するまでメッセージは表示されません。</p>

ディスプレイのメッセージ	原因	解決策
	<p>布ガイド付き自動ボタンホール押え #3Aの校正に失敗しました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> > 押え金の動きやすさを確認します。必要に応じて、糸くず、ほこり、布くずを取り除きます。 > 柔らかい、少し湿らせたマイクロファイバーの布でリフレクターを拭いてください。 > リフレクターの位置を確認してください。必要に応じて、リフレクターの位置を修正するか、押え金を交換してください。 > 押え金の下側のプラスチックに摩耗の兆候がないか確認してください。必要に応じて、押え金を交換してください。 > 送り歯を清掃します。 > ベルニナ販売店にお問い合わせください。
#1000	<p>糸通しが詰まっています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> > ミシンのスイッチをオフにします。糸通しを押し下げて、もう一度放します。ミシンのスイッチを入れます。 > それでもエラーが解消しない場合は、ベルニナ販売店にお問い合わせください。
#1001	<p>«糸切り»ボタンが固着しているか、不具合があります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> > ボタン操作が制限されていないことを確認してください。 > それでもエラーが解消しない場合は、ベルニナ販売店にお問い合わせください。
#1002	<p>«針位置 上/下»ボタンが固着しているか、不具合があります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> > ボタン操作が制限されていないことを確認してください。 > それでもエラーが解消しない場合は、ベルニナ販売店にお問い合わせください。
#1003	<p>«スタート/ストップ»ボタンが固着しているか、不具合があります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> > ボタン操作が制限されていないことを確認してください。 > それでもエラーが解消しない場合は、ベルニナ販売店にお問い合わせください。
#1004 #1005 #1010	<p>故障の正確な原因を特定できません。</p>	<ul style="list-style-type: none"> > ミシンを再起動してください。 > それでもエラーが解消しない場合は、ベルニナ販売店にお問い合わせください。

13.2 トラブルシューティング

故障	原因	解決策
縫い目が一定でない	上糸がきつすぎるか緩すぎます。	<ul style="list-style-type: none"> > 上糸調子を調整します。 > 糸巻きからの糸の送りを確認します。
	針先が鈍い、または針が曲がっています。	> 針を交換し、新品のベルニナ高品質の針が使用されているか確認してください。
	針の品質に問題があります。	> 新品のベルニナ高品質針をお使いください。
	糸の品質が劣っています。	> 良質の糸を使用してください。
	針と糸の組み合わせが不適切です。	> 糸の番手に適切な針の番手を選びます。
	糸通しが不適切です。	> 再度、糸通しします。
	布地が引っ張られています。	> 均等に布地を送ります。
縫い目が一定でない	不適切なボビンケースが使用されています。	> 三角マークの付いた付属のボビンケースを使用してください。
目飛び	針が間違っています。	> 針の番手130/705Hを使用してください。
	針先が鈍い、または針が曲がっています。	> 針を交換してください。
	針の品質に問題があります。	> 新品のベルニナ高品質針をお使いください。
	針が正しく装着されていません。	> 針を平らな面を後ろ側にして、針ホルダーにできるだけ奥まで挿入し、ネジを締めます。
	針の針先形状が不適当です。	> 布地に合った針先形状の針を使ってください。
ステッチの目が揃わない	上糸調子ダイヤルに糸くずが挟まっています。	> 薄い布を折り曲げ、折り曲げた端（布そのものの端ではない）を上糸調子ダイヤルの間に差し込みます。
	糸通しが不適切です。	> 再度、糸通しします。
	ボビンケースのテンションばねの下に糸くずなどが残っています。	> テンションばねの下の糸くずなどを取り除いてください。



故障	原因	解決策
上糸が切れる	針と糸の組み合わせが不適切です。	> 糸の番手に適切な針の番手を選びます。
	上糸の張りが強すぎます。	> 上糸調子を緩くします。
	糸通しが不適切です。	> 再度、糸通しします。
	糸の品質が劣っています。	> 良質の糸を使用してください。
	針板または中釜の剣先が傷ついています。	> 傷を修理するには、正規のベルニナ販売店にお問い合わせください。 > 針板を交換してください。
	糸が天秤の部分に引っかかります。	> ヘッドフレーム（1）を左にスライドさせて取り外します。 > 糸くずを取り除きます。 > ヘッドフレームの4つのノブを付属のノッチに挿入し、ヘッドフレームを右にスライドします。
		
下糸が切れる	ボビンケースが損傷しています。	> ボビンケースを交換します。
	針板の針穴周りに傷がついています。	> 傷を修理するには、正規のベルニナ販売店にお問い合わせください。 > 針板を交換してください。
	針先が鈍い、または針が曲がっています。	> 針を交換してください。
針が折れる	針が正しく装着されていません。	> 針を平らな面を後ろ側にして、針ホルダーにできるだけ奥まで挿入し、ネジを締めます。
	布地が引っ張られています。	> 均等に布地を送ります。
	厚手の生地が押し込まれています。	> 厚手の生地用の ジーンズ押え #8などの適切な押え金を使用してください。 > 厚い縫い目を縫うときは、高さ補正ツール（高さ調節板）を使用します。
	糸に結び目があります。	> 良質の糸を使用してください。
ステッチ幅が調節できない	選択した針と針板を組み合わせで使用できません。	> 針を交換してください。 > 針板を交換してください。
速度が低すぎる	室温が不適切です。	> 使用する前に、ミシンを暖かい部屋に移動して一時間ほど放置してみてください。
	セットアッププログラムの設定。	> セットアッププログラムでソーイング速度を調整します。 > スライドを調整します。

エラーと故障

故障	原因	解決策
ミシンが起動しない	室温が不適切です。	> 使用する前に、ミシンを暖かい部屋に移動して一時間ほど放置してみてください。 > ミシンを接続して電源を入れます。
	ミシンが壊れています。	> ベルニナ販売店にお問い合わせください。
ファームウェア更新中にエラーが発生	USBメモリーを認識できません。	> 更新手順に従ってUSBメモリーを準備します。 > BERNINA USBメモリー (オプションアクセサリ) を使用します。
	更新プロセスがブロックされ、ディスプレイ上の砂時計が動いていない。	> USBメモリーを取り外します。 > ミシンのスイッチをオフにします。 > ミシンのスイッチを入れます。 > ディスプレイの指示に従ってください。
	ファームウェア更新ファイルが見つかりません。	> アップデートデータを解凍します。 > ファームウェアアップデート用のデータは、USBメモリー上のフォルダではなく、データ媒体に直接保存します。
BSR押え金#42が検出されない	レンズが汚れています。	> 柔らかい、少し湿らせた布でレンズを拭いてください。
	BSRケーブルが正しく挿入されていません。	> カチッと音がするまでBSRコネクタを垂直に挿入します。
ビーズやパーツが繰り返し適切に縫い付けられていない	布ガイド付き自動ボタンホール押え #3Aはミシンで校正されていません。	> 布ガイド付き自動ボタンホール押え #3A. (参照ページ: 47)を校正します。

14 収納と処分

14.1 ミシンを収納する

ミシンは元の梱包に収納することをお勧めします。ミシンを寒い場所で保管した場合、使用する1時間前に常温の部屋に置いておきます。

- > ミシンの電源を切り、電源コードをプラグから外しておきます。
- > ミシンは屋外で保管しないでください。
- > ミシンが気候の影響を受けないように保管してください。

14.2 ミシンを処分する

- > ミシンのクリーニングをします。
- > それぞれのパーツは材質ごとに分別して、お住まいの市町村のルールに従って処分してください。

15 機械仕様

名目	数値	単位
布地の最大厚さ	10,5 (0,41)	mm (inch)
ソーイングライト	8	LED
最高速度	900	spm/rpm
サイズ (糸立て棒を除く)	423 × 330 × 200 (18,30 × 12,99 × 7,87)	mm (inch)
重量	9,5 (20.94)	kg (ポンド)
消費電力	90	ワット
電圧	100 – 240	ボルト
感電保護クラス	II	
製品データ：銘板の「コード」の下に表記。		

16 パターンについて

16.1 ステッチパターン

実用縫い

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	22	23	24	25	26	29	30	32
33													

ボタンホール

51	52	53	54	55	56	57	59	60	61	62	63
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

飾り縫い

ナチュラルステッチ

101	102	103	104	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115
116	117	118	119	122	123	124	125	136	137	138	139	140	150
152	167	168	169	170									

クロスステッチ

301	302	303	304	305	306	307	308	309	314	319	320	321	322
323	324	325	326	327	328								

サテンステッチ

401	402	405	406	407	408	409	410	412	413	414	415	416	417
422	423	424	425	426	427	428	429	431	434	437	440	442	443
457	461	465	466										

パターンについて

幾何学模様ステッチ

601	602	603	604	605	606	607	608	609	610	611	612	613	614
615	616	618	619	620	621	622	623	624	625	626	627	628	629
630	631	633	634	635	636	639	640	641	642	643	644	645	648
649	650	651	652	653	654	655	656	657	660	661	664	665	666

ホワイト刺しゅうステッチ

701	702	703	704	705	706	707	708	709	710	711	712	713	714
715	716	717	721	722	723	724	725	726	727	729	730	731	732
738	739	741	742	743	748	749	750	751	752	755	756	762	764
765	767	768											

ユーゲントステッチ

901	902	903	904	905	906	907	908	909	910	911	912	913	914
915	916	917	918	919	920	921	922	924	926	928	929	935	937
944	948	949	950	952	954	955	961						

キルトステッチ

1301	1302	1303	1304	1305	1306	1307	1308	1309	1310	1311	1312	1313	1314
1315	1316	1317	1318	1319	1320	1321	1322	1323	1324	1331	1332	1333	1334

索引

記号

安全上の注意事項	7
押え金の取り替え	31
押え上げレバーで押え金の位置を変える	31
押え上げレバーを取り付ける	28
下糸をかける	39
下糸を巻く	38
画面の明るさの設定	45
釜に注油をする	98
環境保護について	9
機能のアクティブ化/非アクティブ化	21
記号の説明	10
言語を選択	45
最高ソーイング速度の設定	42
糸くず入れの掃除	100
糸こまネットを使用する	30
糸こま押えを取り付ける	30
実用縫い	59
上糸をかける	35
上糸調子の設定	42
針、糸、生地	23
針と糸のバランス	25
針の交換	33
針の停止位置を上/下に設定する（常時）	34
送り歯を掃除する	97
代理店情報を入力	46
電源コード	27
独自の設定を選択	44
二本針に糸を通す	37
標準設定に戻す	47
布ガイド付き自動ボタンホール押え #3Aのキャリブレーション	47
留め縫いの設定	42, 57

B

BSR押えの取り付け	93
------------	----

F

ファームウェア	
値のカスタマイズ	21
ナビゲーション	21
機能のアクティブ化/非アクティブ化	21
接続する	
接続する	27

H

フック	
クリーニング	98

N

針の上げ/下げ	
フットコントローラーによる	29

電源コード	
アメリカ/カナダ	27

あ

値のカスタマイズ	21
アルファベット	78

え

エコモードの使用	48
エラーメッセージ	101

お

お手入れとクリーニング	97
-------------	----

き

キルティング	90
--------	----

こ

コード芯	82
コンビネーションモード	52

さ

サービスデータを保存する	46
サウンドの設定	45

し

省エネモード	48
--------	----

す

ステッチパターンのコンビネーションを保存する	52
ステッチパターンを選択する	49
スライドテーブル	30

そ

装飾ステッチ	73
ソーイングアドバイザーを呼び出す	48
ソーイングスピードの調節	49

ち

チャイルドセーフティロック	48
チュートリアル呼び出し	48

て

テクニカルデータ	108
テストサンプルの縫製	84

と

トラブルシューティング	104
トリプル針の糸通し	38

な

ナビゲーション	21
---------	----

は

パンチワーク用針板を交換する	34
----------------	----

ひ

ピンタック 75

ふ

ファームウェアのバージョンの確認 96

ファームウェアを更新する 96

フットコントローラー 29

へ

ヘルプを呼び出す 48

ほ

ボタンホール 80

み

ミシンを収納する 107

ミシンを処分する 107



BERNINAはメトラー糸をお勧め致します

Mettler[®]

BERNINA International AG | CH-8266 Steckborn Switzerland | www.bernina.com | © Copyright by BERNINA International AG
1031765_10A.10
2023-10 JA

made to create **BERNINA**